

三本木村 南谷地村 石森村 馬寄村 李坪村  
 中澤村 楡米村 高柳村 大幡村 西荒井村  
 師山村 境ノ宮村 秋田村 新沼村 飯川村  
 塚ノ目村 蒜袋村 米袋村 米倉村  
 古川松山分署  
 警察署  
 位置 志田郡松山驛

管轄地名

志田郡ノ内

千田石村 金谷村 長尾村 次橋村 大迫村  
 廣長村 下伊場野村 青生村 深谷村 須广屋村  
 舟越村 吉平渡村 木間塚村

中新田警察署

位置 加美郡中新田驛

管轄地名

加美郡

中新田村 下新田村 四籠村 西小野田村 東小野田村  
 上上狼塚村 下狼塚村 上多田川村 下多田川村 黒澤村  
 米泉村 羽場村 城生村 雜式目村 孫澤村  
 木舟正村 平柳村 沼ノ袋村 菜切谷村 小泉村  
 鳥島村 君ノ袋村 鳥屋ノ崎村 王城寺村 北川内村  
 四日市場村 吉田村 柳澤村 大村 谷地森村  
 一關村 高山根村 宮崎村 高城村 平澤村  
 清水村 月崎村 小栗山村 志津村

岩出山警察署

位置 玉造郡岩手山村

管轄

玉造郡

直轄地名

玉造郡之内

上ノ目村 下ノ目村 下山里村 下ノ葉村 岩出山村

南澤村 正山里村 池月村 清水村 大崎村

新田村 吉田村 大崎村 谷田村

岩出山 警察署 鳴子分署 位置 玉造郡鳴子驛

管轄地名 玉造郡之内

鳴子村 名生定村 大口村 鬼首村

築館警察署

位置 栗原郡築館村

管轄

栗原郡

直轄地名

栗原郡之内

築館村 寶來村 宮野村 玉萩村 太澤村

姫郷村 柳ノ目村 栗原村 長崎村 真坂村

金田村 花山村 片子澤村 正澤村 富野村

築館 警察署 岩崎分署 位置 栗原郡岩崎驛

管轄地名

栗原郡之内

岩崎村

文字村 沼倉村 鳥谷村

大堤村 八幡村 駒崎村 鷺澤村

築館 清水分署

位置 栗原郡清水驛

管轄地名

栗原郡ノ内

小山田村

清水村

清瀧村

小野村

藤澤村

山田村

大里村

荒谷村

豊岡村

嗟峨村

築館 金成分署

位置 栗原郡金成驛

管轄地名

栗原郡ノ内

前金成村

賢兒村

末野村

有賀村

有馬村

津久毛村

澤邊村

藤澤戸村

姉齒村

築館 若柳分署

位置 栗原郡若柳村

管轄地名

栗原郡ノ内

若柳村

畑岡村

武鎗村

白幡村

大岡村

梅崎村

監獄

○本縣告第四十二号 明治十九年八月十九日  
自今監獄支署ヲ左之通改稱ス

仙臺監獄

石巻監獄

古川監獄

大河原監獄

古田縣志

卷之六

古田縣志

古田縣志

古田縣志

古田縣志

古田縣志

古田縣志

古田縣志

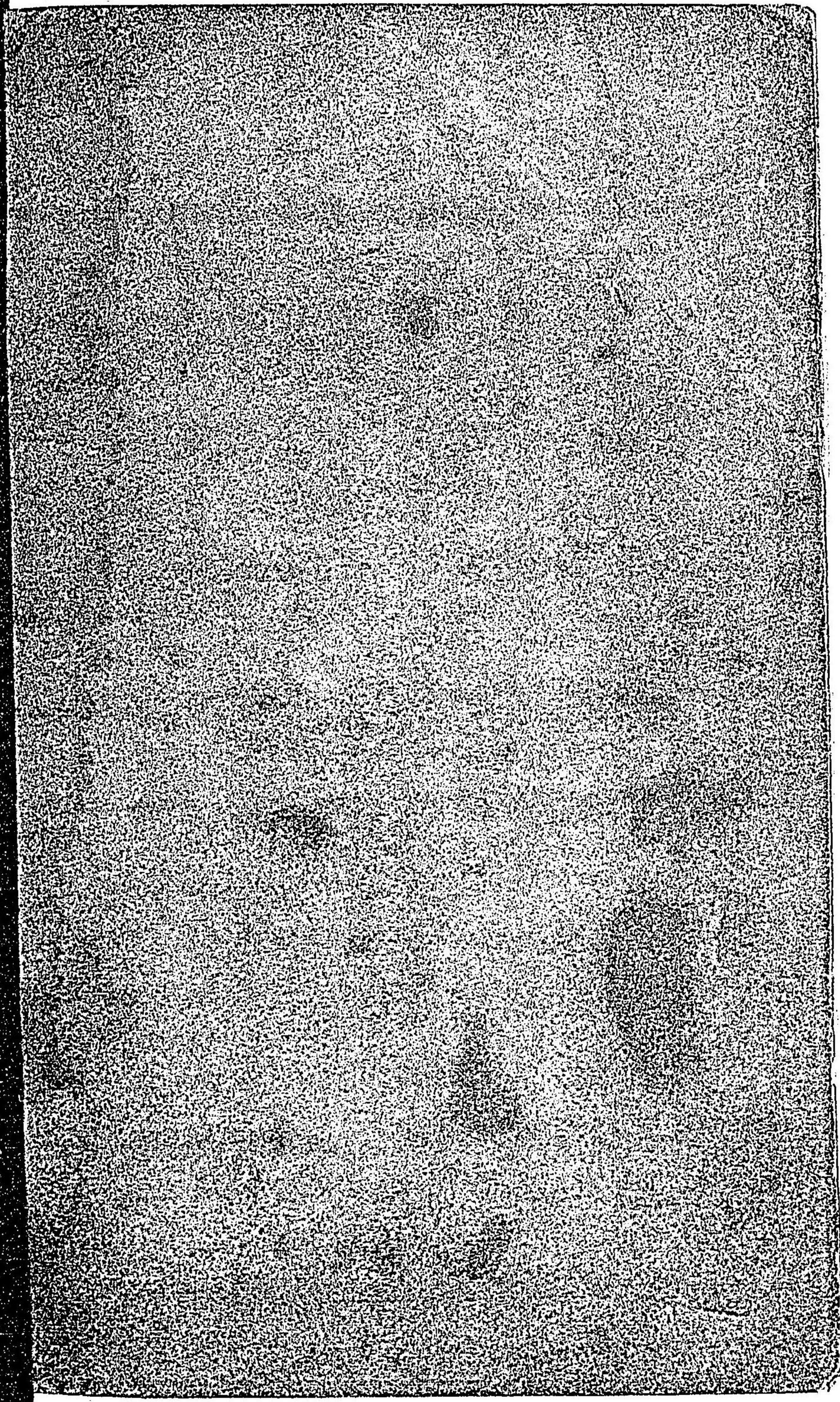
古田縣志

明治十九年三月二十六日出版御届

宮城縣庶務課

宮殿雜錄

庚子年六月三日



欠

MISSING

明治十九年十二月分

# 法令類纂

第十一號

宮城縣庶務課





一本書ハ毎月初其前月中與羽日々新聞紙官報縣報欄内ニ掲載シタル諸法令ヲ編纂スルモノトス

但告示諸達中一時ニ止マリ後來ノ參照ヲ要セサルモノハ其要領ヲ目錄欄内ニ摘記シ圈點ヲ

別ニ全文ヲ掲載セス

本書ニ從來規則目錄ニ從テ類目編纂セント雖ヒ時日甚ク遷延ニ涉ルノ恐レアルヲ以テ唯タ其

類別ヲ其下ニ丁數ヲ付シ本文參照ノ便ニ供ス

何指シテ無常ニ知并報告類ト雖ヒ必要ト認ムルモノハ亦タ其部類中ニ併セ録シテ以テ參考ニ唯

法令類纂目錄 明治十九年 十二月

賀表

本縣 十二月五日 新年紀元節天長節ノ賀表書式ヲ定ム 百六丁

關省官制官規

勅令第七十六號	十一月一日	臨時砲臺建築部官制	八丁
勅令第七十七號	十一月二日	集治監官制	十丁
勅令第三十三號	十一月二日	假留監官制勅令第七十七號集治監官制ニ準據スヘシ	十五丁
勅令第七十八號	十一月五日	陸軍武官俸級條例中追加ス	五十八丁
陸軍省令第四十號	十一月五日	陸軍大學校條例中ヲ改正追加ス	五十九丁

府縣會

（Faint, mostly illegible text, likely bleed-through from the reverse side of the page. Some characters are difficult to discern but appear to be vertical columns of text.)

縣令 第五十五號 廿八日

加美郡縣會議員補欠撰舉會ヲ開シ

百十七丁

戶籍

本縣訓令 第廿二號 廿四日

戶籍表様式ヲ定メ明治十六年十一月乙第六十四號達ヲ廢ス

六十四丁

賞與賑恤

本縣告示 第六十四號 七十二日

明治十八年度備荒儲蓄金出納決算表ヲ示ス

廿五丁

貸借

司法省令 甲第四號 二十二日

登記所ノ位置及管轄區域ヲ定ム

十六丁

全第 第五號 三十二日

登記手續ヲ定ム

十六丁

全第 第二十一號 三十二日

登記所取扱事務吏員ヲ示ス

廿五丁

內務省訓令 第二十七號 四十二日

區役所戶長役場ニ於テ地所建物船舶賣讓渡質入書入等公証ニ係ル帳簿類管轄登記所ヘ引繼ク

三十丁

司法省訓令 第三十二號 三十二日

登記法取扱規則ヲ定ム

卅一丁

全第 第三十三號 四十二日

登記ニ關スル帳簿等ノ程式

四十四丁

司法省訓令 第三十四號 四十二日

登記料及手数料收納手續ヲ定ム

四十四丁

全第 第三十五號 四十二日

登記簿等調製手續ヲ定ム

四十八丁

全第 第三十六號 四十二日

省令 甲第五號(登記請求手續)第七條ニヨリ命令書ヲ請フ者ニハ下付ス

五十一丁

司法省訓令 第三十七號 四十二日

登記所位置管轄區域表制定ニ付郡區町村ノ分合改稱等届出シム

五十一丁

司法省告示 第七號 四十二日

地所建物ノ對シ仮差押ヲ爲サントスル者ハ管轄裁判所ニ請求セシム

五十二丁

司法省訓令 第三十八號 四十二日

登記所ニ於テ區役所戶長役場ヨリ地所建物船舶賣讓渡質入書入等公証ニ係ル帳簿類受取方

五拾二丁

全第 第三十九號 六十二日

後見人地所建物船舶等ノ登記ヲ請フキハ其證書又ハ願書ニ親屬ノ連署ヲ要ス

五拾二丁

宮城縣訓令 第十九號 八十二日

登記所設置ノ郡役所戶長役場ニ於テハ郡長戶長其事務ヲ取扱フヘシ

五十一丁

全第 第二十號 八十二日

戶長役場ニ於テ取扱ヒタル地所建物船舶讓渡等スヘテ公証ニ關スルモノハ引續目錄ヲ調製シ明治二十年一月九日迄テ管轄登記所ヘ引繼クヘシ

五十一丁

本縣告示 第七十二號 廿四日

管下牡鹿郡根岸村地所建物船舶書入質入簿紛雜ノ爲メ更正スルニ付届出ツヘキ期限ヲ定ム

六十五丁

衛生

縣第五十三號令	廿五日	コレヲ病終熄セシニ付本年(六月)第三十九號達ヲ廢ス	八十七丁
本縣諭達第六號	廿五日	寒冷ノ候ニヨリコレヲ病毒稍熄滅スト雖比尙ホ豫防一層注意スヘキ旨ヲ示ス	全丁
農商務省訓令第二十一號	廿五日	明治十八年(八月)布告第二十八號獸醫免許規則第五條ニヨリ仮開業獸醫免許手續ヲ定ム	百八丁

醫事

勅令第七十二號	廿五日	賣藥規則中營業免許期限ヲ廢止ス	一丁
本縣第七十七號	廿八日	賣藥營業者行商者ニシテ豫藥又ハ置藥ト唱ヘ販賣セシ藥品ノ内無印紙ノモノ頭記ノ期限内印紙ヲ貼布用スルカ又ハ買戻シ取戻シセサルモノハ總テ棄却スヘキ旨各縣通知	百十八丁

兵制

勅令第七十三號	卅一日	徵兵令中ヲ改正ス	三丁
---------	-----	----------	----

勅令第七十四號	卅一日	戒嚴令中ヲ追加ス	五丁
---------	-----	----------	----

勅令第七十五號	卅一日	警備隊條例	六丁
---------	-----	-------	----

開第三十一號令	卅一日	明治十九年徵兵適齡者並目下在役中ノ現役兵豫備兵後備兵取扱方	九丁
---------	-----	-------------------------------	----

全第三十二號令	卅一日	對馬國ニ警備隊ヲ置ン	十丁
---------	-----	------------	----

陸軍省令第四十一號	十七日	砲兵射的演習規則中彈藥員數表改正	六十三丁
-----------	-----	------------------	------

本縣訓令第六號	廿八日	本年(七月)乙第四十二號達徵發事務取扱手續へ追加ス	百十六丁
---------	-----	---------------------------	------

陸軍省訓令第二號	廿八日	徵發令第十二條第二項ノ乘馬馱馬駕馬車輛並屬具員數取調項目	百廿一丁
----------	-----	------------------------------	------

全省訓令第三號	廿二日	召集旅費概算表調査方	百廿五丁
---------	-----	------------	------

學制

文部省告第三號	卅一日	高等中學校ノ設置區域ヲ定ム	二丁
---------	-----	---------------	----

全第四號	九日	第二高等中學校位置ヲ仙臺ニシテ	五十六丁
------	----	-----------------	------

文部省訓令第十一號	十六日	小學校教員地方免許狀手数料取扱方ヲ示ス	六十丁
-----------	-----	---------------------	-----

文部省告示 第五號	廿二日	尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教育檢定施行期日	
文部省令 第二十一號	廿二日	尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則	八十八丁
文部省令 第二十二號	廿二日	從前授與ノ中學校師範學校教員免許狀及中學師範學校卒業證書効力	九十三丁
全省令 第二十三號	廿二日	從前授與ノ小學師範學校卒業證書効力	全丁
全省令 第二十四號	廿二日	某學校教員免許狀ヲ有スル者ハ等位ノ該學校ニ準スヘキ諸學校以下ノ教員タルヲ得	全丁
本縣訓令 第廿五號	廿八日	町村學事諸表樣式ヲ定ム	百十三丁
土木河港道路堤防橋梁			
本縣令 第六十七號	十七日	北上東名兩運河ノ義ハ明治廿年度以降本縣ノ管理ニ屬ス	五十七丁
縣令 第五十一號	十九日	真山堀線路之内名取郡閉上濱以南同郡寺島村地内阿武隈川落合假々切迄通船ヲ差許ス	六十丁
山林			
農商務省訓令 第二十二號	廿五日	明法二十年度以降森林收入科目ヲ改正ス	百十二丁

遞信省告示 第五百五號	三十二日	西洋形瀛船高田丸免狀流失	
遞信省告示 第五百七號	十四日	第三則船長技術免狀流失	
遞信省告示 第五百八號	十五日	西洋形船之信號符字點附	
郵便			
遞信省告示 第五百六號	八日	明治十八年(九月)農商務省第二十號告示郵便爲替細則中一章ヲ追加ス	五十五丁
全省告示 第一百十號	十七日	信濃國本山郵便局改稱	
全省告示 第一百十一號	十八日	後志國日司郵便局改稱	
全省告示 第一百十二號	廿二日	越中國富山郵便局及電信分局合併	
全省告示 第一百十三號	廿三日	郵便小爲換規程改正	
全省告示 第一百十四號	廿五日	琉球國那覇三等郵便局ヲ二等郵便局ニ改正ス	

農商務省訓令 第十九號	十七日	度量衡	度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ハ製作ヲ願出ルモ許可セス	六十二丁
----------------	-----	-----	---------------------------	------

農商務省訓令 第二十號	二十二日	農商工	明治十六年(七月)當省第八號達中第十一項第一第十四項第二ヲ更正ス	九十四丁
----------------	------	-----	----------------------------------	------

勅令 第八十號	十六日	鳥獸獵威銃	獵虎并獵獸漁獲及其生皮輸入販賣規則ヲ定ム	六十丁
------------	-----	-------	----------------------	-----

勅令 第七十九號	十六日	國稅	酒造稅則中ヲ改正ス	六十丁
-------------	-----	----	-----------	-----

地方稅

縣令 第五十三號	廿五日	地方稅	明治二十年度地方稅中營業稅雜種稅賦課規則ヲ定ム	六十五丁
縣令 第五十三號	廿五日	地方稅	明治二十年度地方稅戶數割賦課規則ヲ定ム	八十七丁
縣令 第五十六號	廿八日	地方稅	明治二十年度地方稅徵收期限ヲ定ム	百十七丁

出納公債

宮城縣訓令 第十八號	十二日	出納公債	第一部歲入報告書及歲入徵稅額表中誤記訂正又ハ追加ニ係ルモノアルトキノ報告樣式ヲ定ム	一丁
內務省訓令 第二拾六號	三十一日	出納公債	十九年度經費科目表獸疫費ノ項中獸醫費ノ節目ヲ更正ス	一丁
大藏省訓令 第五十七號	十二日	出納公債	本年(十一月)以前償還シタル記名公債ノ利金ノ内未拂ノ分取扱方	五十六丁
全省訓令 第五十八號	十四日	出納公債	年金恩給祿及扶助料ヲ受クルモノ轉住ノトキ交付方	五十七丁
本縣訓令 第三十一號	十八日	出納公債	第一部歲入豫算決算調理順序ヲ定メ明治十七年八月丙第三十三號及本年(五月)丙第廿七號達ヲ廢ス	五十七丁
勅令 第八十二號	廿三日	出納公債	明治十四年度歲計決算調理順序ヲ定メ	九十五丁
本縣訓令 第二十三號	廿八日	出納公債	第一部歲入未納退徵整理順序ヲ定メ明治十七年(九月)丙第二十七號及本年(五月)丙第二十八號達ヲ廢止ス	百五丁

大藏省訓令 第五十九號	廿五日	歲入歲出計算記簿規程ヲ定ム	百八丁
全省訓令 第六十號	廿七日	當省所管經費諸拂戻及缺損金支出方	百十九丁
全省訓令 第六拾一號	廿七日	全上科目	全丁
貨紙幣			
大藏省令 第三十三號	十一月	造幣規則第十三條ヲ改正ス	十六丁
刑法			
勅令 第八十一號	十二月十七日	海軍懲罰令中ヲ改正ス	六十二丁
雜類			
大藏省令 第一百十三號	十二月	金銀地金類ヲ東京出張所ニ輸入シ代リ貨幣拂渡ヲ望ム者ヨリ運賃保險料割合	
全省 第一百十四號	二月	第一百二十四號立銀行名古屋支店設置	
全省 第一百十五號	三月	新公債金札引換公債元金償還抽籤金額	六十四丁
全省 第一百十六號	六月	金祿公債證書所在不分明及盜難	
全省 第一百十七號	八月	租稅監査印章紛失	
全省 第一百十八號	九月	金祿公債證書紛失	
全省 第一百十九號	十月	紙幣三百六十三万九千六百四拾七圓拾錢燒棄	
全省 第一百二十號	十一月	金祿公債證書發見	
全省 第一百廿一號	十二月	全上紛失	
全省 第一百廿二號	一月	全上盜難及所在不分明	
全省 第一百廿三號	七月	第一百八國立銀行負債分配執行期限及場所	
全省 第一百廿四號	八月	金祿公債證書發見	
全省 第一百廿五號	九月	全上所在不分明	
本縣 第七十一號	十二月	宮城大林區署移轉ノ件	
全省 第一百廿六號	五月	金祿公債證書盜難	

全 告 廿七 日 第二國立銀行發行洋銀券明治二十年十二月三十一日迄引  
第百廿七号

丁數 五十二ノ下五十五トアルハ五十三ノ誤以下順次繰上タ

Table with multiple columns and rows, containing faint text and numbers, likely a ledger or schedule.

○勅令 明治十九年十一月二十五日

朕賣藥規則中營業免許期限廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十二號

明治十年(一月)第七號布告賣藥規則中營業免許期限ヲ廢止ス

○宮城縣訓令第十八號 明治十九年十二月一日 郡 區

第一部歳入報告書及歳入徵稅額表ノ誤記訂正又ハ追加スヘキモノアルハ別紙様式ニ據リ報告

スヘシ

但別紙ハ別ニ頒ツ

○内務省訓令第二十六號 明治十九年十一月三十日 府 縣

十九年度經費科目表獸疫費ノ項中獸醫費ノ目節左ノ通更正ス

項	目	節



	豫防費		
	獸醫手當		
	評價人手當		
	獸醫旅費		
消毒藥品	官吏特ニ携帶スル分ニ限ル		

○文部省告示第三號

明治十九年十一月三十日

勅令第十五號中學校令第四條 基キ高等中學校ノ設置區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等中學校ノ設置區域

第一條 高等中學校ノ設置區域左ノ如シ

第一區

東京府 神奈川縣 埼玉縣 千葉縣 茨城縣 群馬縣 朽木縣 愛知縣

靜岡縣 山梨縣 長野縣 岐阜縣 富山縣 石川縣 福井縣 滋賀縣 京都府 大坂府 兵庫縣 三重縣 滋賀縣 岐阜縣 鳥取縣 島根縣

第三區

宮城縣 福島縣 岩手縣 青森縣 山形縣 秋田縣

第二區

京都府 大坂府 兵庫縣 三重縣 滋賀縣 岐阜縣 鳥取縣 島根縣

岡山縣 廣島縣 山口縣 和歌山縣 德島縣 愛媛縣 高知縣

第四區

新潟縣 福井縣 石川縣 富山縣

第五區

長崎縣 福岡縣 大分縣 佐賀縣 熊本縣 宮崎縣 鹿兒島縣

第三條 高等中學校ノ位置第一區ハ東京第三區ハ京都第四區ハ金澤トシ第二區第五區ハ追テ之

ヲ定ム

○勅令 明治十九年十一月三十日

朕徵兵令中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十三號

明治十六年(十二月)第四十六號布告徵兵令中左ノ通改正追加シ明治二十年四月一日ヨリ施行ス  
但第八條ニ追加ノ項ハ直ニ施行ス  
第八條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ悉皆之ヲ警備隊ニ充テ該地内ニ於テ服役セシム但在營時間ハ一箇年以内トス

第十一條第十二條第十八條第二項第十九條中「小學校ヲ除ク」ノ下第二十條第三項第五項中「學校」ノ下ニ各左ノ九字ヲ加フ

及ヒ文部大臣ニ於テ認タル之ト同等ノ學校

第二十三條中「九月十六日」トアルヲ「四月十六日」ト改ム

第廿四條中「一區ヲ設ク」ノ下ニ「又警備隊ヲ置キタル島嶼ハ各別ニ一區ト爲ス」ノ二十字ヲ加フ

第三十四條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

第三十五條中「九月一日」トアルヲ「四月一日」ト改ム

同條中「翌年四月十日」トアルヲ「十一月二十日」ト改ム

第三十六條中「其年ノ九月一日」トアルヲ「其年(十二月三十一日以後十二月三十一日迄ニ係ル者

ハ翌年)四月一日」ト改ム

同條中「九月十六日以後翌年四月以前」トアルヲ「四月十六日以後十一月二十日以前」ト改ム

第三十七條中「八月十五日」トアルヲ「三月十五日」ト改ム

第四十條中「其年九月一日」トアルヲ「翌年四月一日」ト改ム

第四十二條中「四月二十日」トアルヲ「十二月一日」ト改ム

○勅令 明治十九年十一月三十日

朕戒嚴令中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十四號

明治十五年(八月)第三十六號布告戒嚴令第六條中「要塞司令官」ノ下「警備隊司令官若シハ分遣隊

長」ノ十三字ヲ加フ

勅令

明治十九年十一月三十日

朕警備隊條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十五號

警備隊條例

第一章 總則

第一條 小笠原島佐渡隱岐大島沖繩對馬ノ諸分營ニ漸次警備隊ヲ置ク

第二條 警備隊ハ營所司令官ノ管轄ニ屬スルモ指揮供給等ノ事ハ鎮臺司令官直ニ之ヲ管理ス

第三條 警備隊ノ兵卒ハ該島嶼ヨリ徵兵適齡ノ者ヲ徵集シ毎年兩度ニ其半數宛ヲ入營セシメ在

營一箇年ニシテ歸休ヲ命ス

其技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ハ一箇年未滿ト雖モ歸休ヲ命スルコトアル可シ

第四條 警備隊ノ上等兵ハ兵卒ト同シク在營二箇年ノ後歸休ヲ命スト雖モ志願ノ者ハ尙ホ一箇

年間在營スルコトヲ得

第五條 警備隊ノ下士ハ該隊上等兵ノ中ヨリ其任ニ堪ユ可キ者ヲ拔擢シテ之ニ任ス但時宜ニ依

リ他ノ下士ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二章 司令官ノ本務權限

第六條 警備隊司令官ハ兵隊ノ指揮節度軍紀風紀教育訓練等ノ事ヲ掌リ管地ノ警備保護ニ任ス

第七條 警備隊司令官ハ該全島ノ徵兵調査及豫備役後備軍驅員兵員ニ係ル一切ノ事務ヲ管理ス

第八條 警備隊司令官ハ管内騷擾ノ警アル時ハ先ツ情狀ヲ鎮臺司令官ニ申報シテ其區處ヲ承ク

可シ但事火急ニシテ兵力ヲ要シ地方長官ヨリ出兵ヲ要求スル時ハ之ニ應シ狀ヲ具シテ鎮臺司

令官ニ急報ス可シ其事外國ニ關涉スルモノハ出兵スルモ守勢ノ戰備ヲ取ル可シ

第九條 管内ニ於テ儀式慶典若クハ變災事故アリテ儀仗或ハ警護ノ爲メ地方長官ヨリ兵隊ヲ要

スル事由ヲ具シテ之ヲ請フ時ハ鎮臺司令官ノ區處ヲ請フ可シ但事火急ニシテ區處ヲ請フノ暇

ナキ時ハ之ニ應シ然ル後之ヲ報告ス可シ

第十條 出師準備ハ定規ニ從ヒ遺算ナキヲ要ス故ニ常ニ人馬召集物品徵發運輸等ノ方法ヲ整ヘ

又後備兵ニ支給ス可キ武器彈藥被服陣具器具材料等ヲ備ヘ各主務官ヲシテ其貯藏保存ノ事ヲ

擔任セシム可シ

第十一條 管内ニ在ル下士及兵員ノ身上ニ係ル事項ニ就テハ地方官ノ通牒ヲ受理シ例規アルモノハ直ニ處分シ其例規ヲキモノハ鎮臺司令官ニ具申シテ區處ヲ承シ可シ

○勅令 明治十九年十一月三十日

朕臨時砲臺建築部官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十六號

臨時砲臺建築部官制

第一條 臨時砲臺建築部ハ東京ニ置キ陸軍省ニ隸シ全國樞要ノ地ニ砲臺ヲ建築スルコトヲ掌ル

第二條 臨時砲臺建築部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長 一人

事務官 若干員

技師 若干員

技師 若干員

書記 若干員

第三條 部長ハ陸軍將官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ陸軍上長官士官書記ハ陸軍下士屬ヲ以テ之ニ

充ク

第四條 部長ハ砲臺建築ノ事務ヲ總理ス

第五條 事務官ハ部長ノ命ヲ承ケ其事務ヲ從ヒ書記ハ事務官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條 技師技師ハ技術上ノ事ニ任シ又各部ノ工事ニ從事ス

第七條 建設砲臺ノ位置並其制式兵備ノ要領等ハ陸軍大臣參謀本部長協議決定シ後之ヲ建築部

ニ下シ工事ニ從事セシム

第八條 陸軍工兵方面ハ砲臺建築ノ工事ニ就テハ建築部ニ從屬シ部長ハ指揮ヲ承クル者トス

第九條 砲臺建築ノ事ニ係リ地方廳其他ニ往復スルハ建築部長ノ名ヲ以テス可シ

○閣令第三十一號 明治十九年十一月三十日

勅令第七十三號ヲ以テ明治十六年布告徵兵令中改正追加ノ處今十九年徵兵適齡者並目下在役中

ノ現役豫備兵後備兵取扱方左ノ通之ヲ定ム  
一今十九年徴兵適齡者ニシテ現役兵當籤以者ハ明治二十年四月二十日ヨリ五月二十日迄ノ間ニ  
入營セシメ其服役年期ハ同年四月二十日(徴兵令第四十二條ニ當ル者ハ入營ノ當日以下四月  
二十日トアル者皆同シ)ヨリ起算シ補充員當籤ノ者ハ明治二十年四月二十日ヨリ起算シ滿一  
箇年ノ後第二豫備徵員ニ編入ス

一現役兵服役年期ハ入營年ノ四月二十日ヨリ起算シ豫備兵後備兵服役年期ハ其編入年ノ四月二  
十日ヨリ起算ス  
○閣令第三十三號  
勅令第七十五號警備隊條例第二條ニ依リ對馬國ニ警備隊ヲ置ク

○勅令 明治十九年十二月二日

朕集治監官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽 干覽

勅令第七十七號

### 集治監官制

第一條 集治監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

副典獄

書記

看守長

監獄醫

第二條 典獄一人奏任三等又ハ四等トス内務大臣ノ指揮監督ヲ受ケ監獄ノ事務ヲ管理ス

第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條 典獄ハ内務大臣ニ具狀シテ判任官ノ定員ヲ設ケ及ヒ臨時ノ須要ニ由リ判任官定員ノ外

ニ係給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條 典獄ハ毎會計年度末ニ於テ判任官以下使用ノ狀況ヲ具ヘ臨時須要ニ由リ使用シタル雇

員ノ日數及ヒ金額ヲ細分統計シ内務大臣ニ報告スヘシ

第六條 典獄ハ一周年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別勤勞アル者ヲ賞與スルコトヲ  
得其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第七條 典獄ハ法律命令ヲ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ  
具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第八條 典獄ハ内務大臣ヲ認可テ經テ處務細則ヲ定ムルコトヲ得

第九條 副典獄一人判任ニ等トス典獄ノ事務ヲ佐シ典獄事故アルトキハ内務大臣ノ命ニ依リ其  
事務ヲ代理ス

第十條 書記ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ書記簿記計算ヲ掌ル

第十一條 看守長ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ヲ戒護シ看守ヲ指揮ス

第十二條 監獄醫ハ判任トス二等ヨリ十等ニ至ル典獄ノ命ヲ受ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス

第十三條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十四條 集治監ノ事務ヲ分掌スル爲メ庶務課、警守課、工役課、會計課及ヒ醫務所ヲ置ク

第十五條 各課ニ課長一人醫務所ニ所長一人ヲ置ク

庶務工役會計課長、書記、警守課長、看守長、醫務所長ハ監獄醫ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條 課長所長ハ典獄ノ命ヲ受ケ主務ヲ處理ス

第十七條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 諸官廳其他往復文書ノ授受發送ニ關スル事

二 監獄ニ係ル公文圖書類ヲ保存スル事

三 監獄ノ構造方法ニ關スル事

四 囚徒ノ出入ニ關スル事

五 囚徒ノ名籍並ニ刑期ヲ調査スル事

六 囚徒ノ願訴ニ關スル事

七 囚徒ノ貨物領置ニ關スル事

八 給與品及ヒ差入品ニ關スル事

九 教誨並ニ衛生ニ關スル事

十 特赦及ヒ假出獄免幽閉ニ關スル事

- 十一 監獄ニ關スル統計表ヲ調製スル事
- 十二 監獄ニ係ル事務ニシテ他課ノ主管ニ屬セサル事
- 第十八條 警守課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 囚徒ノ戒護ニ關スル事
  - 二 囚徒ノ書信接見ニ關スル事
  - 三 囚徒ノ疾病死亡逃走ニ關スル事
  - 四 囚徒ノ賞罰ニ關スル事
  - 五 囚徒ノ行狀録ヲ調製スル事
  - 六 囚徒ノ作業ヲ督勵スル事
  - 七 囚徒ノ願訴ヲ受付スル事
- 第十九條 工役課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
  - 一 工業ニ關スル事
  - 二 服役囚徒ノ料程並ニ工錢ヲ定ムル事

- 三 工業ニ要スル器具材料ヲ調査スル事
  - 四 製作物品ヲ審査スル事
  - 第二十條 會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
    - 一 經費ノ豫算決算ニ關スル事
    - 二 金錢物品ノ出納ニ關スル事
    - 三 囚徒ノ工錢給與ニ關スル事
    - 四 製作物品ノ販賣ニ關スル事
    - 五 監獄一切ノ需用品ヲ供給スル事
    - 六 監獄ノ建物其他ノ財産ヲ保管スル事
  - 第二十一條 醫務所ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
    - 一 囚徒ノ疾病診察治療及ヒ藥劑ニ關スル事
- 閣令第三十三號 明治十九年十二月二日  
假留監官制ハ勅令第七十七號集治監官制ニ準據ス

○大藏省令第三十三號 明治十九年十二月一日  
明治十九年四月大藏省令第十六號造幣規則第十三條左ノ通り改正ス

第十三條 金銀地金類ヲ大阪本局ニ輸入シテ東京又ハ横濱ニ於テ代リ貨幣拂渡ヲ望ムモノ又ハ東京出張所ニ輸入シテ東京横濱又ハ大阪神戸ニ於テ其拂渡シテ望ムモノ其運賃保險料ノ割合ハ實費ニ基キ大藏大臣時々之ヲ定メ告示スヘシ

○司法省令甲第四號 明治十九年十二月二日  
登記所ノ位置及ビ管轄區域別表ノ通之ヲ定ム

○司法省令甲第五號 明治十九年十二月三日  
本年八月法律第一號ヲ以テ登記法制定ニ付キ明治二十年二月以後登記ヲ請フ者ハ左ノ手續ニ依ル可シ

第一條 登記ヲ請フ者ハ第一號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ  
登記簿ノ謄本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第二條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス可シ代人ヲ以テ登記

ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サシム可シ  
第三條 初テ登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ區戶長ノ證明シタル印鑑ヲ登記所ニ差出ス可シ

第四條 地所ニ付キ初テ登記ヲ請フ者ハ地券ヲ登記官ニ示ス可シ但現ニ賃入中ノ地所ニ付テハ此限ニ在ラス

船舶ニ付テハ鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限ニ在ラス  
第五條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ

建物ノ圖面ハ邸地ノ形狀、坪數、(段別)方位及ビ建物ノ形狀、間尺、位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引黒字ト爲シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ

建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戶主之ニ連署ス可シ

地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス  
第六條 地方ヲ分割シテ賣買讓與シ又ハ賃入書入ト爲ストキハ前條ニ準シ其圖面ヲ差出スヘシ



第七條 裁判執行上ノ糶賣若クハ入札ニ因リ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其ノ登記ヲ請ヒ  
 又ハ地所建物船舶ニ關スル差押假差押差留假差留假處分及地所建物ノ收益差押ニ付キ記入若  
 シハ取消ヲ請フニハ裁判所ヨリ其命令書ヲ受ケ之ヲ登記所ニ示ス可シ  
 裁判言渡ニ依リ登記變更若クハ取消ヲ請フトキ亦前項ニ同シ

第八條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スルトキハ登記所ノ命令ニ從ヒ登記料ヲ納ムル者ヨ  
 リ評價費用ノ見積金額ヲ豫納ス可シ

第九條 登記簿ノ證ヲ請フ者ハ第三號書式ニ準シ物件等ヲ記載セル願書ヲ登記所ニ差出ス可シ  
 第十條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件  
 ノ所有者ヨリ登記ヲ爲タル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件質入書入又ハ差押

差留等ニ係ルトキハ債主又ハ差押差留等ノ權利者ノ連印ヲ要ス  
 地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準シ届出ヲ爲ス可シ

第十一條 船舶ノ定繫所ヲ更改シタルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ謄本ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登  
 記所ニ差出シ其登記ヲ請フ可シ

同一ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入シタル場合ニ於テハ其登記所ニ登記ノ變更ヲ請フヘシ

第一號書式  
 (用紙半紙半截)

住所

賣渡人氏名印

地所  
 建物 賣買(讓與)ニ付登記願  
 船舶

住所

買受人氏名印

此代價金何圓

此登記料金何圓何錢

年月日

又ハ

何々質入ニ付登記願

此貸借金何圓  
此登記料金何圓何錢

又、  
家督  
遺產相續ニ付登記願

此價格金何圓  
此登記料金何圓何錢

又、  
何々拂下ヲ得候ニ付登記願

此拂下代價金何圓  
此登記料金何圓何錢

又、  
何々登記ノ謄本又ハ拔書下付願

此手敷料金何錢

又、  
何々登記簿閱覽願  
此手敷料金何錢

又、

登記取消又ハ變更願  
此手敷料金何錢

第二號書式  
他皆以上ノ例ニ倣ヒ各別ニ認ム可シ

印鑑證明願

區役所  
又ハ戸  
長役場  
ノ印

右印鑑御證明被成下度奉願候也

明治何年何月何日

某區  
戸長何某殿

右印鑑相違無之候也  
明治何年何月何日

(印鑑用紙堅五寸横一寸  
但厚紙ヲ用フ可シ)

何國何郡何村何番地  
何

何國何郡何村何番地  
何

某區  
戸長何

某官印

第三號書式甲

地所登記濟證下付願

何郡何町(村)字何

番地

一田何段何畝步

地價金何圓

同郡同町(村)同字

何番地

一畑何畝步

地價金何圓

右ノ地所今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ讓受(買受)候ニ付地券書換願出度候間登記濟ノ證御下付被成下度此段奉願候也

何郡何町(村)何番地

何 某印

年 月 日

某登記所御中

登記濟

某登記所印

第三號書式乙

船舶登記濟證下付願

定繫所何

第何號 (鑑札番號)

一西洋形船何々丸

檣 何本

長 何尺

幅 何尺

深 何尺

登簿噸數 何噸

公稱馬力 若干

汽機 何々

汽鐘 何々

端船 何艘

何々 何々

何々 何々

又ハ  
 定繫所何  
 第何號 (鑑札番號)  
 一日本形船何々丸  
 石數 何石積  
 長 何間  
 幅 何間  
 深 何間  
 端船 何艘  
 何々 何々  
 何々 何々  
 右ノ船舶今般何郡何町(村)何番地何某ヨリ買受(讓受)候ニ付鑑札書換願出度候間登記濟ノ證  
 御下付被成下度此段奉願候也  
 年月日 何 某印  
 某登記所 御中

登記濟 某登記所

明治何年何月何日

○司法省訓令第三十一號

明治十九年十二月三日

裁判所、北海道廳、府縣、沖繩縣

登記法第三條ニ基キ登記事務ハ治安裁判所判事及ヒ登記所々在ノ郡役所戶長役場ノ郡長戶長

シテ之ヲ取扱ハシム但治安裁判所書記郡書記及戶長役場吏員ハ判事郡長戶長ノ命ヲ受ケ事務ノ

補助ヲ爲スコトヲ得

○告示第六十四號

明治十九年十二月七日

明治十八年度備荒儲蓄金出納決算左表ノ如シ

宮城縣備荒儲蓄金出納第六回精算表

前年度ヨリ	通貨	米穀	額面	公債証書
越前	額面	額面	額面	額面
一六、三八七	一六、三八七	一六、三八七	一六、三八七	一六、三八七
六三〇	六三〇	六三〇	六三〇	六三〇
四、三三七	四、三三七	四、三三七	四、三三七	四、三三七
五六、六三三	五六、六三三	五六、六三三	五六、六三三	五六、六三三
七八八	七八八	七八八	七八八	七八八
五〇、四二五	五〇、四二五	五〇、四二五	五〇、四二五	五〇、四二五
三九〇	三九〇	三九〇	三九〇	三九〇

收	
公儲蓄金	五八、五五〇、〇〇〇
配附米金	一六、三八八、〇〇〇
公債証書賣却益金	五九、六六六、九〇〇
公債証書當籤益金	四、三八〇、〇〇〇
公債証書利子	一、二二一、二五八
公債証書當籤	三、八一、五〇〇
地租貸與返納金	二、七〇、八〇八
公債証書賣却代	四、五六、〇〇〇
雜項收入	三、八二六、三〇一
米穀	一、二、二九一
公債証書	一、五七、八九五
合計	一八三、六三四
食料	六三四

支	
火災救助	小屋掛料 五八五、〇〇〇
	農具料 三六九、〇〇〇
	種敷料 九六一
病災救助	食料 六三〇
倉庫購入費	二、八五一、七五二
營繕費	九七、三九三
倉敷料	三四八、八二五
倉番給	二、三四、一九八
米穀交換損失	五三〇
運送費	一、一一一、〇六五
米穀買入代	一、三、八二六、三〇一
公債証書	八三七、五〇〇
公債証書買入代	一、一、三九三、三五〇

所	支	考備	殘		出	
			公債証書	米穀	雜買入出	米穀
宮城縣儲蓄金穀所在表	計	○収入中公債証書買却代ハ救助ノ費途ニ充テタル者ナリ ○支出中火災救助ハ志田郡外四郡罹災ノ戸數百二拾三戸人員六百六十九人病災救助ハ栗原郡罹災人員五人救助セシ者ナリ又米穀欠減損失ハ虫害等減穀ニ對スル員額ナシ	額面	二〇、九〇三	三、〇〇三	二、〇〇三
			實價	〇五五	八三七	四〇〇
			全上	六五、一八七	三、八二五	五三三
				六〇、八六五	九二八	七〇四
				一二六、八九一	五五〇	

縣應貯積	通貨	
	公債証書	米穀
刈田郡白石本郷貯積	六八、四八五	八三七
柴田郡大河原驛同上	四八五	七〇四
伊具郡角田本郷同上	六七二	〇〇〇
亘理郡亘理驛同上	八四一	〇〇〇
名取郡増田驛同上	四八二	一八〇
仙臺區若林同上	二〇六二	七二八
全 鉄炮町同上	二二三	二八六
黒川郡今村同上	二、一二八	九五一
加美郡中新田驛同上	一、一六〇	三七九
玉造郡岩出山驛同上	九八四	〇〇八
志田郡古川驛同上	八〇八	八三九
	一、三二九	〇〇〇

遠田郡 涌谷 驛 同上	同	一七四九	九九八
栗原郡 荒谷 驛 同上	同	五六六	三〇五
全 郡 宮野 驛 同上	同	一六〇一	三四八
全 郡 大岡 村 同上	同	九八九	六二一
登米郡 佐沼 驛 同上	同	一〇二五	八七七
全 郡 淺水 村 同上	同	九五一	五七〇
桃生郡 鹿又 村 同上	同	一七四六	六七四
牡鹿郡 大瓜 村 同上	同	三二七	六九八
本吉郡 志津川 驛 同上	同	一八九	三六九
全 郡 氣仙沼 驛 同上	同	四〇〇	一九七
志田郡 三本木 驛 同上	同	二二二	八四五

○内務省訓令第二十七號

明治十九年十二月四日

北海道廳

府縣 沖繩縣 除ク

本年(十二月)司法省令甲第四號ヲ以テ登記所ノ位置及管轄區域相定候ニ付テハ從前區役所戶長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入與書割印帳並ニ建物船舶賣買讓渡書入質記載帳及右物件ニ關スル差押又ハ公証猶豫願シ書類等悉皆取纏メ各葉ノ合目ニ契印シ一帳簿毎ニ其紙數ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引繼帳簿目錄ヲ調製シテ來ル明治二十年一月二十九日ヲ以テ管轄登記所ニ引繼方取計フヘシ

○司法省訓令第三十三號  
明治十九年十二月三日  
裁判所 登記所

本年法律第二號ヲ以テ登記法制定ニ付登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム

登記法取扱規則

第一章 登記所印章及ヒ登記簿

第一條 登記所ハ執書ヲ以テ其署名ヲ刻シタル印章大小二顆ヲ調製シ其印影ヲ管轄始審裁判所ニ届ク置ク可シ

第二條 登記簿ハ地所建物船舶賣買分テ別冊ヲ爲ス可シ其

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ

二冊ヲ爲スニ付得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出テ付ス可シ

第三條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題（登記簿用紙中物件ノ欄ヲ設ケタル所ヲ云フ以下準之）及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス

其表題ハ登記法第七條ノ一三四ニ掲ケタル項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ所有權ノ得有即チ賣買讓與等ヲ登記スルノ所トス

其乙區ハ抵當即チ質入書入ヲ登記スルノ所トス

其丙區ハ執行上ノ抵當即チ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

第四條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ始審裁判所長之ヲ渡スモノトス

登記所ハ凡二年間用フヘキ登記簿ノ冊數及ヒ各冊ノ枚數ヲ見積リ豫メ前項ノ請求ヲ爲ス可シ

第五條 登記簿ハ始審裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裡面ニ記載シテ之ニ氏名ヲ署シ官印ヲ捺シ且毎葉ニ契印ス可シ

第六條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ始審裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ

町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現状ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二章 登記手續

第七條 登記所ニ於テハ受付帳ヲ製シ置キ登記ヲ出願若クハ請求等ヲ順序ニ從ヒ之ニ其受付事件ヲ記載シ番號ヲ付ス可シ

第八條 登記官ハ受付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ又ハ請求書等ヲ審査シ且登記簿ニ就キ本人ノ所有物件ナルコトヲ確認シ仍ホ質入書入又ハ差押差留等ノ記入ノ有無ヲ調査シ若シ是等ノ登記アルトキハ之ヲ本人ニ示シタル上登記ノ手續ヲ爲ス可シ

登記官ハ登記ヲ爲ス前本人ノ印影ヲ檢シ區戸長ノ證明アル印鑑ト符合スルニ非レハ登記ヲ爲ス可カラス

第九條 登記簿ニ未ダ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初メテ登記ヲ爲ス場合ニ於テ治安裁判所及ヒ郡役所ニアル登記所ハ地券、鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ登記法第四十條ニ記載スル證書ニ



依リ戸長役場ニアル登記所ハ地券、鑑札及ヒ所管ノ公簿並ニ其戸長役場ノ公簿若クハ登記法  
 第四十條ニ記載スル證書ニ依リ物件ノ所有者ヲ確認シ其物件ニ故障ナキニ於テハ先ツ登記簿  
 表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ所有者ヲシテ之ニ認印セシメタル上各區ニ登記ノ手續ヲ爲スコシ  
 第十條ニ抵當ヲ登記スル場合ニ於テ未ダ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲  
 シタル上甲區中登記事由ノ欄内ニ書入若クハ質入シ登記出願ニ付キ何々ノ證書(地券、鑑札及  
 登記法第四十條ニ記載セシ證書ヲ云フ)及ヒ何々ノ公簿(前條ノ公簿ヲ云フ)ニ依リ記載セシ  
 旨ヲ記シ負債者即チ物件ノ所有者ヲシテ所有者ノ欄内ニ署名捺印セシメタル上乙區中ニ出願  
 事件ノ登記ヲ爲スコシ  
 執行上ノ抵當ヲ記入スル場合ニ於テ未ダ所有者ノ登記アラサルトキハ登記官ニ於テ前條及ヒ  
 本條前項ノ手續ヲ爲シ物件及ヒ所有者ノ氏名ヲ記載シ其側ニ認印シタル上丙區中ニ命令事件  
 ノ記入ヲ爲スコシ但後日其物件ニ關シ所有者ヨリ他ノ登記ヲ出願シタルトキハ所有者ヲシテ  
 物件ニ認印シ及ヒ其氏名ノ下ニ捺印セシム可シ  
 第十一條ニ登記物件ノ番號ハ初メテ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付

スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シ之ヲ付ス可シ  
 同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ  
 混雜ヲ生スルノ憂ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載スコシ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ  
 記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得  
 第十二條ニ番號中ニ登記セシ數物件ヲ分テ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取  
 消ノ欄内ニ其要領及ヒ第何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未ダ登記ヲ爲サハル  
 用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且ツ第何號ヨリ移シタルコトヲ付記スコシ其他ノ手續ハ通常ノ  
 場合ニ同シ  
 前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ未抹ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキ  
 更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載スコシ  
 數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ  
 明記シテ登記ヲ爲スコシ  
 第十三條ニ番號中ニ物件ヲ分割シテ質入書入ト爲シ若クハ差押差留等ト爲ストキハ乙區若ク

ハ丙區ノ抵當事由欄内ニ何々ノ物件ヲ質入書入若クハ差押差留等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ  
數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區抵當事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十四條 質入書入ト爲リタル物件ヲ賣買讓與スルトキハ甲區登記事由欄内ニ買受人讓受人ニ於テ其質入書入中ニ係ルコトヲ了知セル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

登記法第二十二條ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準據ス可シ

第十五條 物件ヲ分割シテ賣買讓與スル爲メ第十二條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件已ニ舊番號ノ物件ト共ニ書入質入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號(舊番號ヲ云フ)ノ物件ト連帶シテ抵當物トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其抵當ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ抹消ス可シ

第十六條 質入書入ノ權ヲ賣買讓與シ(相續ノ場合ヲ除ク)又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟

ノ債主ノ權ニ代ル等抵當權ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ負債者承諾ノ主登記ヲ出願シタルキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

質入書入ノ債主負債者ト協議シテ抵當物件ヲ引取り所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙區抵當

取消ノ欄内及甲區登記事由ノ欄内ニ其要旨ヲ登記ス可シ

第十七條 質入ヲ變更シ書入ト爲シ書入ヲ變更シ質入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合

ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十八條 登記法第十五條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シ華族世襲財產ナルトキハ地券

及ヒ同第四十條ニ記載スル證書ニ依リ世襲財產タルコトヲ認メ其旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記

入ス可シ

第十九條 賣買讓與其他ノ方法ニ因リ曾テ地所建物船舶ノ所有權ヲ得タル者其所有權ノ登記ヲ

出願スルトキハ第九條ノ例ニ準シ之ヲ登記ス可シ

第二十條 從前ノ公證書ニ登記セシ書入質入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴收セス舊手續

ニ依リ之ヲ終結ス可シ

若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲スコシ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收ス可キモノトス

第二十一條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞燒失流亡等ニ依リテ消滅シ其旨ヲ届出タルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ抹ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十二條

第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題中ニ記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收セサルモノトス

第二十二條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定繫所ヲ更改シ其登記ヲ請フ者アルトキハ轉入セ

シ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ抵當物トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町

村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ抹ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿謄本ニ其旨ヲ付記シ之ヲ本人ニ下付シテ轉入スル登記所ニ差出サシメ其登記所ハ其謄本ニ依リ登記ヲ爲シ登記濟ノ通

知書ヲ原登記所ニ送致ス可シ原登記所ハ其通知ニ依リ取消ノ手續ヲ爲スコシ

前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一第二ノ規則ニ依リ變更及ヒ謄本ノ手数料ヲ徴收ス

ルモノトス

第二十三條 登記簿ニ記載スル願人ノ氏名ハ本人ヲシテ自署セシメ其名下ニ捺印セシム可シ若

シ自署スル能ハサルトキハ登記官代書シ其旨ヲ付記ス可シ

第二十四條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題部中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記

物件ノ番號ヲ記シ登記官之ニ認印シ帳簿ニ編入ス可シ

第二十五條 登記ノ爲メ差出タル契約書ニハ登記濟ノ上登記官之ニ登記物件ノ番號ヲ記載シ且

ツ認印シテ本人ニ還付ス可シ

第二十六條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲スコキ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記

簿中未ダ登記ヲ爲サル他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用

紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且ツ第何冊何丁ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ續ヲ設

シルトキ亦此例ニ準ス

前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順序ヲ繼續シテ之ヲ付ス可シ

第二十七條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字體ハ楷書ヲ用ヒ鮮明ナルヲ要ス又金銀物品ノ員數及ヒ年月

日ヲ記スルニハ必ス壹貳參拾ノ文字ヲ用フ可シ

登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ訂正若クハ挿入等ヲ爲スニハ之ヲ朱書ス可シ

文字ハ之ヲ改竄ス可カラス若シ刪除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ

訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ本人ヲシテ之ニ認印セシム可シ

第二十八條 後見人若クハ代人ヨリ登記ヲ出願セシトキハ後見人タルノ證若クハ代理ノ委任狀

ヲ差出サシメ之ヲ帳簿ニ編入ス可シ

前項ノ證書ヲ差出サ、ルトキハ登記ヲ爲ス可カラス

第二十九條 登記官自己ノ權利義務ヲ登記ス可キ場合ニ於テハ治安判事及ヒ郡長ハ書記戸長ハ

次席吏員ヲシテ代テ登記ヲ爲サシム可シ

第三章 帳簿

第三十條 登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 地所登記簿
- 二 建物登記簿
- 三 船舶登記簿
- 四 受付帳
- 五 登記見出帳(三種)
- 六 印鑑簿
- 七 謄本下付帳
- 八 登記濟證下付帳
- 九 圖面綴込帳
- 十 請求書綴込帳
- 十一 登記願書綴込帳
- 十二 證明書綴込帳
- 十三 名刺綴込帳

十四 代理證書綴込帳

十五 届書綴込帳

第三十一條 登記簿ノ謄本若クハ抜書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ抜書ヲ下付スルコトヲ得ス

第三十二條 謄本ハ登記簿一用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ抜書ハ請求アル部分ヲミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第三十三條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿證下付帳ト割印シテ之ヲ下付ス可シ

第三十四條 登記見出帳ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ鑑札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス

同番號ノ地所ニシテ數筆ニ分レタルモノアルトキハ地券面ノ符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可ク同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可ク番號若クハ符合ヲ同フスル地所又ハ番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入

書入ト爲ストキハ其各部ノ地所若クハ建物ニ子丑寅卯ノ符號ヲ付シテ之ヲ區別ス可シ

前二項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ藏メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持退ノ準備ヲ爲シ尠テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ

登記ニ關スル帳簿ハ裁判所ノ命令アルニ非サレバ登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十六條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルトキノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十七條 登記所ニ於テハ毎月登記件數表ヲ調製シ翌月五日マテニ其地ヲ發シ管轄始審裁判所ニ送致ス可ク其裁判所ニ於テハ之ヲ取纏メ合計表ヲ付シ其月末マテニ其廳ヲ發シ司法省ニ差出ス可シ

第四章 登記料手数料及ヒ評價費用

第三十八條 登記料ハ登記ヲ爲ス前之ヲ納メシム可シ登記事件ノ取消若クハ變更ノ登記ヲ請フ者ノ納ム可キ手数料ニ付テモ亦同シ

第三十九條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記所ハ其費用ヲ見積リ登記料ヲ納ムル者ヨリ之ヲ豫納セシム可シ

第四十條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ

評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ三名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可シ若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ選定ス可シ

第四十一條 登記法第三十三條ニヨリ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ之ヲ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラス

若シ登記所ニ於テ費用ヲ負擔ス可キトキハ豫納金ノ全額ヲ還付ス可シ

○司法省訓令第三十三號 明治十九年十二月四日 裁判所・登記所 登記簿及ヒ登記簿謄本其他登記ニ關スル帳簿等ノ程式別冊ノ通之ヲ定ム (別冊ハ別ニ頒ツ)

司法省訓令第三十四號 明治十九年十二月四日 裁判所・登記所

登記料及手数料收納手續左ノ通之ヲ定ム

登記料及手数料收納手續

第一條 登記料ハ第二部歳入科目ノ手数料ノ項中初行ヘ登記料及手数料ノ目ヲ設ケ整理スルモシトス

第二條 登記所ハ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ於テ登記料預引證ニ押用スル印鑑ヲ徴シ置ク可シ

第三條 登記所ニ於テ登記料又ハ手数料ヲ上納セシムルニハ登記願人ヲシテ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ現金ヲ預ケ入レ其預引證ヲ以テ登記所ニ差出サシム可シ

第四條 登記所ニ於テハ前條預引證ノ證印ヲ檢シ收入簿ニ記入シタル上領收証ヲ登記願人ニ付與ス可シ但シ領收證及收入簿ハ左ノ雛形ニ準據スヘシ

第五條 治安裁判所ノ登記官ハ本年閣令第三號歳入歳出納規則第二十七條ニ據リ納付書ニ預引證ヲ添ヘ更ニ國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヘ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ハ遞付書ヲ以テ會計主務官ヘ送付報告ス會計主務官ハ大藏省令第四號歳入取扱順序第二十三條ニ依リ整

理スルモノトス

第六條 郡役所戸長役場ニアル登記所ニ於テハ第五條ノ手續ニ依リ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ納付シ其領收ヲ證シタル納付書ハ一箇月毎ニ取纏メ翌月五日以内ニ其管轄始審裁判所ニ送納ス可シ

第七條 國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ヲキ地方ノ登記所ニ於テハ現金ヲ以テ收入シ十日毎ニ(金額五十圓ニ充ツルトキハ其時々)取纏メ納付書ヲ添ヘ便宜ノ國庫金取扱所又ハ現金仕拂所ニ納付シタル上前二條ノ手續ヲ爲ス可シ

第八條 始審裁判所ニ於テ郡區役所戸長役場ニアル登記所ヨリ送納ヲ受ケタルトキハ會計主務官ニ於テ登記件數表ト照合帳記ノ上大藏省令第四號歲入取扱順序第二十三條ニ據リ整理スルモノトス

表

明治何年何月

登記料及手数料收入簿

某 登記所

明治十九年十二月四日

司法省訓令第三十四號附屬雛形

裏

說明

- 一 此雛形ニ「」印ヲ付スル者ハ記入ノ一例ヲ示スモノナリ用紙ハ半截半紙ヲ用フヘシ
- 一 ①印ハ登記所角印章②印ハ其長印章ニシテ③印ハ登記官ノ認印ナリ明治年月日トアルハ收入セシ日附ヲ記スヘシ
- 一 番號ハ此領收證ノ順ヲ追ヒ一號ヨリ起シ記載スヘシ尤會計年度ヲ以テ改ムヘシ
- 一 種類ノ欄内ニハ地所賣買家屋讓與等其收入ノ性質ヲ記スヘシ
- 一 乙雛形ハ領收證トシテ納人ニ渡シ甲雛形ハ登記料及手数料收入簿トシテ一箇月毎ニ表紙ヲ附シ一冊綴リ登記所ニ備置シヘシ

甲	明治	年	月	日	何	某
號	第	號	納人	氏名		

形	種	員金	員金	號	納人
地所讓與	金何圓	金何圓	第	號	氏名
					何 某
登記料及手数料			右領收候也		
明治 年 月 日			「某」 記所		

○司法省訓令第三十五號

明治十九年十二月四日

始審裁判所 登記所

來ル明治二十年二月一日ヨリ登記法施行ニ付テハ登記簿等調製ノ儀ハ左ノ手續ニ依ル可シ

第一 登記簿、登記簿謄本、登記簿拔書及ヒ登記件數表ノ用紙ハ美濃紙ヲ用ヒ登記料及手数料領收證ノ用紙ハ半截ノ半紙ヲ用ヒ始審裁判所ニ於テ調製シ下渡ス可シ但登記簿及ヒ謄本ハ紙數三枚ヲ以テ一用紙ニ爲スモノトス

第三 登記受付帳登記見出帳登記簿謄本下付帳登記濟證下付帳印鑑簿ノ用紙及ヒ圖面綴込帳其  
他帳簿ノ表紙ハ始審裁判所ヨリ之ヲ下渡ス可シ但治安裁判所ニ付テハ此限ニ在ラス

第二 登記所ニ於テ左ノ書式ニ準シ凡一箇年間ニ要スヘキ帳簿用紙及ヒ表紙ヲ豫算シ毎年十一月十五日マテ始審裁判所ニ請求ス可シ但治安裁判所ニ付テハ書式中第五以下ノ記載ヲ要ス

- 書式
- 請求書
- 一 登記簿 何冊
- 一 內 何冊
- 一 何冊
- 一 何冊
- 一 登記簿謄本用紙 何部
- 一 登記簿拔書用紙 何枚



- 一 登記件數表用紙 何枚
- 一 登記料及領收證用紙 何枚
- 一 手數料 何枚
- 一 登記受付帳用紙 何枚
- 一 登記見出帳用紙 何枚
- 一 登記簿謄本下付帳用紙 何枚
- 一 登記濟證下付帳用紙 何枚
- 一 印鑑簿用紙 何枚
- 一 帳簿ノ表紙 何枚

右及請求候也

明治 年 月 日

某 登記 所

某始審裁判所御中

第四 前項ノ帳簿用紙及ヒ表紙ハ本年ニ限り明治二十年二月ヨリ同年十二月マテニ要スヘキ分  
ヲ豫算シ本年十二月十五日マテニ其請求ヲ爲ス可シ

○司法省訓令第三十六號

明治十九年十二月四日

裁判所

登記法施行ニ付テハ本年當省令甲第五號第七條ニ依リ命令書ノ下付ヲ請フ者アル場合ニ於テ之  
ヲ相當ナリトスル時ハ其請求者ニ命令書ヲ下付スル儀ト心得可シ

○宮城縣訓令第十九號

明治十九年十二月八日

郡區町村

登記所ヲ置カレタル郡役所戸長役場ニ於テハ郡長戸長其事務ヲ取扱フヘシ  
但郡書記及戸長役場筆生ヲシテ其事務ノ補助ヲナサシムルコトヲ得

○宮城縣訓令第廿號

明治十九年十二月八日

郡區町村

本年(十二月)司法省令甲第四號ヲ以登記所ノ位置及管轄區域ヲ定ラレタルニ付テハ從前區役所  
戸長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入與書割印帳并ニ建物船舶賣買讓渡書入質記載帳  
及右物件ニ關スル差押又ハ公證猶豫願ノ書類等悉皆取纏メ各葉ノ合目ニ契印シ一帳簿毎ニ其紙  
數ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引繼帳簿目錄ヲ調製シテ來ル明治二十年一月廿九日ヲ以テ管轄登  
記所へ引繼シヘシ

○司法省訓令第二十七號

明治十九年十二月四日

北海道廳

府縣 沖繩縣  
ヲ除ク

本年當省令甲第四號ヲ以テ登記所位置及ヒ管轄區域相定候付テハ自今郡區町村ノ分合改稱等アル時ハ其旨當省へ届出ツ可シ

○司法省訓令第三十八號

明治十九年十二月六日

登記所

本年(十二月)內務省訓令第二十七號ヲ以テ從前區役所戶長役場ニ於テ取扱タル地所賣買讓渡質入書入與書割印帳並ニ建物船舶賣買讓渡書入質記載帳及ヒ右物件ニ關スル差押又ハ公證猶豫願ノ書類等悉皆取纏メ各葉ノ合目ニ製印シ一帳簿毎ニ其紙數ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ別ニ引繼帳簿目錄ヲ添へ來ル明治二十年一月二十九日ヲ以テ管轄登記所へ引繼方ノ儀相達候ニ付テハ登記所ニ於テハ其受取方取計フ可シ

○司法省訓令第三十九號

明治十九年十二月六日

裁判所 登記所

來ル明治二十年二月二日以後登記法施行ニ付後見人ヨリ地所建物船舶ノ登記ヲ請フトキハ明治十六年七月十八日內務省達ニ通り其證書又ハ願書ニ親屬連署ノ上ナラテハ登記ヲ爲サル儀ト心得可シ

○司法省告示第七號

明治十九年十二月四日

欠

MISSING

本年法律第二號ヲ以テ登記法創定セラレタルニ付テハ明治十五年第六十號布告公證猶豫願ノ手  
ハ明治二十年二月二日以後消滅スヘキヲ以テ地所建物船舶ニ對シ仮差押ヲ爲サント欲スルモノ  
ハ管轄裁判所ニ其請求ヲ爲ス可キモノトス

○遞信省告示第百六號

明治十九年十二月八日

明治十八年九月農商務省第二十號告示郵便爲替細則中左ノ一章ヲ追加シ明治二十年一月十六日

ヨリ施行ス

第六章 爲替金渡濟通知

第三十七條 爲替差出人其爲替金ノ渡濟通知ヲ要スルトキハ豫メ振出局ニ之ヲ請求スヘシ

第三十八條 爲替金渡濟ノ通知ハ拂渡局ニ於テ爲替金ヲ拂渡ストキ通知書ニ受取人ノ證印ヲ取

リ即日之ヲ差出人ニ送付スルモノトス

第三十九條 爲替金渡濟ノ通知料ハ爲替證書壹枚ニ付金貳錢トス

第四十條 通知料ハ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ爲替願書又ハ小爲替原符ニ貼付スヘシ

但通知料ニ用ヒタル郵便切手ハ振出局ニ於テ消印シ納濟ノ證トス

第四十一條 爲替金返戻ノ場合ニ於テモ既納ノ通知料ハ還付セス

第四十二條 通知料納濟ノ爲替ハ振出局ニ於テ其爲替證書(電信爲替ハ領收證書)ニ通知料納濟  
ノ印ヲ押捺シ交付スヘシ

第四十三條 受取人ハ通知料納濟ノ爲替ヲ受取トキ拂渡局ノ未メニ隨ヒ通知書ニ記名調印スヘ  
シ又小爲替ニアリテハ其差出人ノ宿所氏名ヲ陳述スヘシ

第四十四條 爲替金渡濟ノ通知ヲ脱漏シタルトキハ其通知料ヲ還付スヘシ

第四十五條 通知料還付ハ爲替振出ノ日ヨリ六箇月内ニ差出人ヨリ驛遞局長ニ請求スヘシ此期  
限ヲ過ルルトキハ之ヲ還付セス

◎文部省告示第四號 明治十九年十二月九日 文部省告示第二號高等中學校ノ設置區域第二條高等中學校ノ位置第二區ハ仙臺トス

◎天藏省訓令第五十七號 明治十九年十二月十日 北海道廳 府縣  
本年十一月以前ニ悉皆償還了シタル記名公債元利金ノ内未拂ニ屬スル分ハ本年(七月)訓令第  
三十號第三條ニ準據シ取扱フヘシ

◎大藏省訓令第五十八號 明治十九年十二月十四日 北海道廳 府縣  
年金恩給諸祿ノ支拂方令達ヲ得タル後受給者若シ管下隔地ニ轉住ノ爲メ既ニ指定セシ支拂所ヨ  
リ遠隔ナルトキ又年金恩給及扶助料ヲ受ルモノ出願期限後受領地ヲ轉シ他管下ニ轉住ノモノア  
ルトキハ本年當省訓令第三十五號ニ準シ受取人ニ交付セシムルコトヲ得

◎本縣告示第六十七號 明治十九年十二月十七日  
北上東各兩運河ノ義ハ明治二十年度以降本縣ノ管理ニ屬ス

◎本縣訓令第廿二號 明治十九年十二月十八日 郡 區  
第一部歳入豫算決算調理順序左ノ通相定メ明治十七年(八月)丙第二十三號及本年(五月)丙第二  
十七號達ハ廢止ス

但様式ハ別ニ願ツ

第一部歳入豫算決算調理順序

第一條 郡區長ハ甲號様式ニ準シ第一部歳入豫算書(正副二通ツ)ヲ調製シ前年度五月三十一  
日迄ニ郡區役所ヲ發シ差出スヘシ

第二條 歳入ハ率子左ノ區別ニ基キ豫算スヘシ歳入中財産ノ高(地租國立銀行稅船車稅ノ類)若クハ事業ノ免許(諸營業稅諸鑑札料牛馬賣買免許稅銃獵稅ノ類)ニ課スルモノハ其物件前々年度末ノ現數ヲ標準トスベシ

歳入中製造品賣買高諸製造稅度量衡稅諸印紙稅地券證印稅ノ類)若クハ人民ノ行爲(米商會所稅ノ類)ニ賦課スルモノハ前々年度以前二ヶ年度實收入ノ平均額ヲ標準トスヘシ

第三條 郡區長ハ歳入豫算ニ對シ毎月増減ノ有無ヲ調査シ報告書正副二通ヲ製シ翌月五日迄ニ郡區役所ヲ發シ差出スヘシ尤其増減アルトキハ乙號様式ニ準シ詳悉事由ヲ記載スヘシ

第四條 郡區長ハ豫算各科目ニ對シ實收入ノ過不足ヲ調査シ丙號様式ニ準シ決算報告書ヲ調製シ翌年度十二月二十八日迄ニ郡區役所ヲ發シ差出スヘシ

○勅令 明治十九年十月十五日

朕陸軍武官進級條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十八號

本年(七月)勅令第五十八號陸軍武官進級條例第十九條ニ左ノ二項ヲ追加ス

○陸軍大學校卒業者ニシテ參謀職務適任證書ヲ有スル者拔擢セラレトキハ決定候補名簿ニ登載スル候補者ニ先チ進級セシム但此特例ハ大尉ニ進ム迄ヲ限トス

○陸軍省令第四十號 陸軍省令明治十九年十二月十五日 陸軍大學校條例中左ノ通改正追加ス

第三章第一條中參謀ヲ高尙ニ改ム

同 第十三條削除

同 第十四條ヲ第十三條トナシ左以如ク改正ス 二月十八日

卒業試驗ニ於テ及第スル者ハ卒業證書表章スル爲メ徽章ヲ授與シ其優等ノモノニハ更ニ參謀職務適任證書ヲ與ヘ原隊(隊外ハ原所管)ニ復歸セシム

同 第十三條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ第十四條トナス 同日

大學校卒業徽章ヲ有スル者拔擢セラレトキハ進級檢査ヲ行ハス決定候補名簿ニ登載ス

○文部省訓令第十一號 明治十九年十二月十六日 北海道廳府縣

文部省令第十三號第四條ニ據リ授與スル小學校教員地方免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三号ニ準據スヘシ

○縣令第五十一號 明治十九年十二月十九日

貞山堀線路之内名取郡開上濱以南同郡寺島村地内阿武隈川落合假切迄本月廿五日ヨリ通船差許スニ付通行ノ船舶ハ本年二月甲第三號布達ノ通必得ヘシ

○勅令 明治十九年十二月十六日

朕酒造稅則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十九號

明治十三年(九月)第四十號布告酒造稅則第九條中「九月三十日限」トアルヲ「十月三十一日限」ト

改ム

○勅令 明治十九年十二月十六日

朕臘虎并臘獰獸獵獲及其生皮輸入販賣規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第八十號

臘虎并臘獰獸獵獲及其生皮輸入販賣規則

第一條 明治十七年第十六號布告但書ニ據リ農商務大臣ノ特許ヲ得タル者ハ北海道廳ノ定メタル獵獲期限獵獲區域内ニ於テ臘虎并ニ臘獰獸ノ獵獲ニ從事スヘシ

但獵獲ニ從事スルトキハ常ニ其特許狀ヲ携帯シ海陸何レノ場合ヲ問ハス獵獲監視官吏又ハ警察官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第二條 臘虎并ニ臘獰獸ノ獵獲ニ從事スル者北海道ニ至リタルトキハ獵船ノ名、噸數、乘組人名ヲ北海道廳指定ノ出張所ニ届出該道廳ニ於テ獵獲船ノ爲メ特ニ定メタル徽章ヲ常ニ船橋又ハ其他船部ノ見易キ位置ニ掲グヘシ

第三條 臘虎并ニ臘獰獸ノ生皮ヲ賣却セントスル者ハ之ヲ第三條ニ記載セル出張所ニ差出シ當該官吏ノ檢印(烙印ヲ用ユルモ妨ナシ)ヲ受クヘシ其檢印ナキモノハ之ヲ賣却スルコトヲ得ス

第四條 前條當該官吏ノ檢印ナキ臘虎并ニ臘獰獸ノ生皮ヲ帝國諸港ニ輸入シ若シハ船舶ニ積載

シテ帝國諸港内ニ滯泊シ又ハ市場ニ販賣シ或ハ販賣セントスル者ヲ發見スルキハ稅關官吏又ハ警察官吏ニ於テ該物品ヲ取押シ直ニ告發スヘシ

第三但露西亞國及北亞米利加合衆國所轄内ニ於テ其政府ノ免許ヲ得テ獵獲シタル臘虎并ニ臘熊其獸之生皮ニ於テハ船主又ハ船長タル者其國相當官吏ヨリ付與セシ證書若シハ本邦在留露國ニ及合衆國領事ノ證明書ヲ差出シタル後該品ヲ帝國内ニ輸入スルコトヲ得

○農商務省訓令第十九號  
明治十九年十二月十七日  
北海道廳 府縣 沖繩縣 除ク

度量衡種類表ニ掲載ナキ權衡ハ自今製作ヲ願出ルニ至之ヲ許可セス

○勅令  
明治十九年十二月十七日  
朕海軍懲罰令中改正ノ件ヲ裁可シ茲之ヲ公布セ

第一御 名第十御 聖  
勅令第八十六號  
海軍懲罰令中左ノ通改正ス

第二條 各所管長官軍港司令官ハ部下軍人ノ此令ヲ犯シタル者ヲ處分ス可シ

第三條 所管長官若シハ軍港司令官ニ屬スル所轄長ニシテ艦船或ハ軍隊ノ指揮權ヲ有スル者及艦船營長ハ部下軍人ノ此令ヲ犯シタル者ヲ處分ス可シ但艦船營長缺員ノ時ハ副長其權ヲ有ス

○艦船營副長ハ部下ノ准士官十日以内ニ謹慎下廿二日以内ノ監倉卒三十日以内ノ監倉ニ該ル者ヲ處分ス可シ

分隊長機關長番兵司令ハ部下ノ下士十日以内ノ監倉卒廿日以内ノ監倉ニ該ル者ヲ處分ス可シ

第六條 所管長官ハ部下准士官以上ノ懲罰ニ處セラレタル者アル時ハ之レヲ海軍大臣ニ報告ス可シ

六 軍港司令官艦船營長及所轄長ハ部下軍人ノ懲罰ニ處セラレタルモノアル時ハ之ヲ所管長官ニ報告ス可シ

○陸軍省令第四十一號  
明治十九年十二月十七日

砲兵射的演習規則第二條第五十三條及ヒ第五十一條ノ彈藥員數表左ノ通改正ス

第二條中此演習ハ毎年「春季ニ於テシ」ノ六字ヲ「一回トシ」ニ改ム

第五十三條曰砲彈ハ一中隊ニ十二擧二十擧各十發ヲ目途トシ所要ニ應シ其都度支給スヘシ



射擊種類	彈藥種類				榴霰彈	霰彈	小計	號砲藥
	榴	砂	填	藥				
試驗射擊				一三			一三	三
教示射擊							一〇	一一
教育射擊				七二	二四		九六	六
中隊戰鬥射擊				一三六	四〇	一一	一八八	一一
大隊戰鬥射擊				四〇	二〇	一一	七二	四
撰拔射手競點射擊		三五					三五	二
中隊競點射擊				一六	一六		三二	二
一年計	四五		二七七	一〇〇	二四	四四六	三一	

○本縣告示第七十一號

明治十九年十二月二十二日

今般宮城大林區署仙臺區勾當臺通十番地へ移轉ノ旨通知アリタリ

○本縣訓令第廿二號

明治十九年十二月廿四日

郡區町村

戶籍表別紙(自第一表至第八表)様式ニ依リ調製シ戶長役場ニ於テハ一月卅一日限り(郡役所區ハ縣廳)へ差出郡役所ニ於テハ各郡別ニ取纏メ總計ヲ付シ二月廿日限り縣廳へ差出スヘシ

但明治十六年(十一月)乙第六十四號達ハ廢止ス(別紙ハ別ニ領ツ)

○告示第七十三號

明治十九年十二月廿四日

管下杜鹿郡根岸村地所建物船舶書入質入賣買讓渡公證割印簿明治十一年十月廿四日ヨリ同十七年七月六日迄同郡流留村同十一年十月廿三日ヨリ十七年七月六日迄同郡祝田濱及佐須濱同六年一月ヨリ十七年七月六日迄ノ分錯雜ニ付更正セシムルニヨリ關係ノ者ハ來二十年一月廿日限り該村戶長役場ニ申出ヘシ右期限經過ノ上ハ一切關係ナキモノトス

○縣令第五十二號

明治十九年十二月廿五日

明治二十年度地方稅中營業稅雜稅賦課規則縣會ノ決議ヲ經左ノ通之ヲ定ム

明治二十年度營業稅雜稅賦課規則

第一章 稅區稅率

第一條 營業稅中卸賣仲買小賣商及雜商ノ稅區稅率ハ左ノ如シ

一 稅區 ○石卷村門脇村蛇田村湊村 ○古川村大柿村中里村稻葉村

二 稅區 ○白石本郷藏本村長袋村郡山村 ○若柳村武館村 ○馬場谷地村和多田沼村 ○角田本郷

三 稅區 ○横倉村豊室村 ○鹽竈村野々島石濱寒風澤濱桂島 ○大河原村堤村平村大谷村小山田村

四 稅區 ○村田郷足立村小泉村薄木村 ○登米村日根半村淺水村 ○北方村 ○岩沼本郷 ○本

五 稅區 ○氣仙沼村新城村鹿折村月立村 ○福沼村馬寄村師山村宮内村大幡村

六 稅區 ○吉村次谷村 ○船岡村上名生村中名生村 ○北浦村關根村鶴ヶ塚村深沼村桑針

七 稅區 ○李坪村境宮村江合村福浦村小泉村築口沼村宮袋村 ○北浦村關根村鶴ヶ塚村深沼村桑針

八 稅區 ○岩ヶ崎村駒崎村鳥谷村 ○築館村姫郷村太澤村玉萩村 ○高城

九 稅區 ○增田村田高村下増田村杉ヶ袋村 ○田尻村通木村北牧ノ目村八幡村大嶺村小松村中ノ目

十 稅區 ○村諏訪味村沼木村長岡針村休塚村馬放村狐塚村 ○築館村姫郷村太澤村玉萩村 ○高城

十一 稅區 ○本郷松島村磯崎村 ○小堤村鹿島村神宮寺村上郡村 ○高城

十二 稅區 ○千石村下伊場野村次橋村金谷村須摩屋村 ○米谷村 ○寺崎村中津山村 ○桃ノ浦小竹

十三 稅區 ○濱折濱月ノ浦侍濱茨ノ濱小積濱牧濱竹濱狐崎濱田代濱福貴浦 ○郷六村上愛子村下愛子

十四 稅區 ○村熊ヶ根村作並村大倉村芋澤村 ○下中目村石森村楡木村青生村 ○中新田村四日市場

十五 稅區 ○村下新田村雜式目村 ○唐桑村小原木村 ○高清水村小山田村清瀧村山田村 ○金成村

十六 稅區 ○有賀村津久毛村 ○淵上濱高柳村小塚原村牛野村大曲村

十七 稅區 ○麻崎村横山村 ○三本木村音無村齋田村坂本村蟻ヶ袋村南谷地村蒜袋村高柳村伊賀村桑

十八 稅區 ○折村上伊場野村秋田村 ○相野谷村成田村中島村中野村皿貝村鞍馬村 ○南目村苦竹村

十九 稅區 ○小田原村 ○荒谷村小野村豊岡村嗟峨村 ○高須賀村高屋村藤村鷺屋村 ○和淵村前谷

二十 稅區 ○折村上伊場野村秋田村 ○相野谷村成田村中島村中野村皿貝村鞍馬村 ○南目村苦竹村

二十一 稅區 ○小田原村 ○荒谷村小野村豊岡村嗟峨村 ○高須賀村高屋村藤村鷺屋村 ○和淵村前谷

二十二 稅區 ○折村上伊場野村秋田村 ○相野谷村成田村中島村中野村皿貝村鞍馬村 ○南目村苦竹村

二十三 稅區 ○小田原村 ○荒谷村小野村豊岡村嗟峨村 ○高須賀村高屋村藤村鷺屋村 ○和淵村前谷

二十四 稅區 ○折村上伊場野村秋田村 ○相野谷村成田村中島村中野村皿貝村鞍馬村 ○南目村苦竹村

二十五 稅區 ○小田原村 ○荒谷村小野村豊岡村嗟峨村 ○高須賀村高屋村藤村鷺屋村 ○和淵村前谷

地村原○具坂村片子澤村柳目村王澤村○大口村鴨子村名生定村○大島村○狼河原  
村鱒淵村

七等稅區

○岩手山村 ○小野本郷上下堤村川下村西福田村新田村高松村根古村 ○廣淵村鹽入村大

窪村北村赤井村 ○野蒜村宮戸濱大塚濱淺井村濱市村牛綱村 ○前川村本砂金村川内村

今宿村 ○有馬村末野村藤渡戸村賢兒村 ○白幡村 ○鹿茨村須江村 ○雄勝濱名振濱

船越濱大須濱熊澤濱桑濱立濱大濱明神濱小島濱水濱分濱 ○大原濱小網倉瀨清永田濱谷

川濱鮫浦寄磯濱泊濱新山濱船川濱十八成濱給分濱長渡濱網地濱 ○平渡村木間塚村廣長

村深谷村大迫村船越村長尾村 ○登米 ○吉田村 ○九森村筆甫村 ○根岸村流留村

濱佐須濱 ○南小牛田村不動堂村牛飼村 ○入間野村四日市場村上川名村富澤村 ○大

里村藤澤村 ○戸倉村 ○赤生津村鴨浪村 ○長町村郡山村 ○南方村 ○富谷村敷田

村 ○關村三ノ關村三ノ關村赤草村志戸田村 ○

八等稅區

○金山本郡大内村伊手村 ○福地村針岡村釜谷濱長面濱尾崎濱 ○澤邊村姉齒村栗原村大

堤村大岡村 ○岩切村小鶴村燕澤村鶴ヶ谷村 ○三木村今泉村日邊村飯田村沖野村種次

十一村藤塚濱井土濱 ○田子村福室村岡田村 ○宮床村小野村 ○下一栗村上野目村池月村

上山里村下山里村 ○歌津村 ○大森村北境村東福田村三輪田村 ○西野村中津山村

○西郡村陸峨立村 ○宮村八ノ宮村深谷村曲竹村 ○前田村柳生村熊野堂村 ○金田村

○長崎村花山村 ○今村

九等稅區

○御嶽村小泉村大谷村 ○越河村五賀村平村 ○宮崎村北川内村 ○矢亦村小松村大曲村

○小平村鷺足村山寺村淺生原村大平村 ○根廻村手樽村北小泉村幡谷村初原村櫻渡戸村

赤沼村竹谷村 ○長袋村境野村湯元村馬場村新川村 ○大瓜村南境村高木村眞野村水沼

村沼津村 ○七ヶ濱村 ○大松澤村柏川村石原村 ○寺島村早股村押分村下野郷村 ○

茂庭村坪沼村 ○葉坂村入間田村成田村小成田村海老穴村船迫村 ○親村津田村小栗村

小下倉村大卒都婆村 ○飯野村小船越村 ○橋浦村長尾村女川村 ○天崎村下野目村南

澤村清水村新田村 ○鬼首村 ○田沼村森村 ○女川濱澤田村宿濱針濱鷺神濱小乘濱高  
 白濱橫浦大石原濱野々濱飯子濱塚濱宮々崎石濱桐々崎竹々浦尾浦御前濱指々濱出島江々  
 島 ○關村渡瀬村滑津村湯原村 ○宮野村富野村寶來村  
 十等稅區 ○石森村加賀野村 ○七北田村荒卷村北根村市名坂村松森村野村上谷刈村古内村 ○利府  
 ○本郷加瀬村森郷春日村飯土井村澤乙村神谷澤村菅谷村 ○南宮村市川村新田村高崎村下  
 馬村浮島村山王村高橋村八幡村大代村留々谷村東田中村笠神村 ○支倉村菅生村小野村  
 ○十三濱 ○稻屋敷村灣澤村八幡村 ○櫻崎村脇谷村倉坪村牛田村永井村太田村 ○木間  
 塚村大柳村福步袋村練牛村二郷村 ○正沼村櫻塚村 ○石越村 ○新田村 ○階上村松  
 岩村  
 十一等稅區 ○齋川村中目村森合村 ○荒井村荒濱 ○南小泉村伊在村霞目村六丁目村長喜城村蒲町村  
 ○島田村枝野村小齋村尾山村 ○佐倉村藤田村梶賀村 ○坂元本郷眞庭村高瀬村 ○中村

山崎村味明村不來内村川内村羽生村土橋村鶉崎村東成田村 ○下余田村袋原村上余田村  
 四郎丸村 ○長岡村北長谷村三色吉村志賀村南長谷村小川村北目村 ○(名取)吉田村川  
 上村鹽手村笠島村小豆島村 ○大野田村富田村富澤村山田村鈎取村 ○館山村小田村山  
 田村松掛村木沼村 ○小坂村坂津田村平貫村鳩原村 ○小原村 ○沼倉村松倉村 ○梅  
 崎村畑岡村 ○文字村 ○涌谷村小塚村下郡村上郡村猪岡短臺村 ○菜切谷村城生村羽  
 場村上狼塚村下狼塚村平泉村上多田川村下多田川村 ○蒲生村中野村 ○中坪村荻坪村  
 平針村南高城村中高城村成田村南牧々目村富長村上坪村淵尻村  
 十二等稅區 ○根白石村小角村西田中村福岡村朴澤村實澤村 ○植松村飯野坂村手倉田村本郷村堀内村  
 ○岡村君萱村神次郎村江尻村花島村 ○(亘理)吉田村八手庭村長瀨村 ○中泉村田澤村  
 牛袋村小山村十文字村榎袋村下郡村 ○三澤村鷹巢村坂谷村大町村 ○高倉村毛萱村稻置  
 村笠島村 ○圓田村平澤村鹽澤村矢附村小村崎村 ○相川村高田村舞野村森袋村松坂村  
 報恩寺村三之内村檜和田村 ○(黒川)今泉村北目大崎村鳥屋村大平村嘉柳村小鶴澤村太



三 賣藥受賣藥劑一方ニ付

年稅 金拾錢

四 賣藥行商(藥劑一方ニ付)

年稅 金拾錢

但受賣者ニシテ行商ノミチナスモノ前項ノ受賣稅ヲ課セス

五 蔬菜 乾物 漬物 海藻 煮豆 菓物 魚鳥 獸肉 牛乳 麵類 燒酎 豆腐 油揚

蕨類 納豆 餛飩 心太米 餅類 食鹽 醴 紙 灰 筆墨 印肉

玩弄物 植木 盆栽 竹細工ノ行商

年稅 金五拾錢

六 吳服太物 酒醬油受賣 小間物 金物 荒物 漆器 陶器 古道具 古金 硝子器 古

着類 油類 茶 砂糖ノ行商

年稅 金壹圓

七 生糸 繭 眞綿 蠶卵紙 屑物ノ行商

年稅 金三圓

八 諸職工

年稅

一等 一日賃金(食費共)若クハ收入見積金貳拾錢以上 金壹圓

二等 拾五錢以上 金五拾錢

三等 拾五錢以下 金貳拾五錢

九 製糸場 紡績場 器械製造所 銅鐵鑄物場 活版所 製紙所 製革及細工場 硝子製造

所 機械場 精米會社 瓦煉化石製造所 紺屋 洋服 裁縫所 石版製造所 海產物製

造所

以上職工二人以上(婦女ニシテ賃金ヲ給セス營業ノ補助ヲナサシムル者ヲ除ク)ヲ使用ス

ルモノ 金三圓

年稅

一ヶ年間收入見積

金貳百圓未滿 金壹圓

全上 金貳圓  
 貳百圓以上  
 全上 金三圓  
 五百圓以上  
 全上 金五圓  
 千圓以上  
 以上千圓ヲ増ス毎ニ三圓ヲ遞加ス

第三條 雜種稅ノ稅率ハ左ノ如シ

一 料理屋

月稅

一等 一年收入見積 金七圓五拾錢  
 金五千圓以上  
 二等 全上 金五圓  
 金三千圓以上  
 三等 全上 金三圓  
 金貳千圓以上  
 四等 全上 金貳圓  
 金千圓以上

五等 全上 金壹圓  
 金千圓未滿

二 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋

月稅 金壹圓

三 飲食店

年稅

一等 收入見積 金拾五圓  
 金千圓以上  
 二等 全上 金拾圓  
 金七百圓以上  
 三等 全上 金七圓五拾錢  
 金五百圓以上  
 四等 全上 金五圓  
 金三百圓以上  
 五等 全上 金三圓  
 金貳百圓以上  
 六等 全上 金貳圓  
 金百五拾圓以上

七等	全上 金百圓以上	金壹圓
八等	全上 金百圓未滿	金五拾錢
四 湯屋		
年稅		
一等	收入見積 金百五十拾圓以上	金三圓
二等	全上 金百圓以上	金貳圓
三等	全上 金百圓未滿	金壹圓
五 理髮人	營業ニ從事スル モノ一人ニ付	金壹圓
年稅		
六 遊藝師匠 遊藝稼人		
二月稅		
一等	一ヶ年收入見積 金百圓以上	金五拾錢

七 相撲 俳優		
月稅		
一等	一ヶ年收入見積 金百圓以上	金五拾錢
二等	全上 百圓未滿	金貳拾五錢
八 辯問 遊妓		
月稅		
一等	一ヶ年收入見積 金百圓以上	金貳圓五拾錢
二等	全上 金百圓未滿	金壹圓
九 雇人受宿		
年稅		
十 市場		金壹圓



日稅

金壹圓

但牛馬ハ上リ高二百分ノ二壳麻桑楮ハ日税金拾錢

十一 演劇

日稅木戶錢〔木戶錢中錢下足錢共〕二十倍  
〔通算一人分ノ最高額〕

興行

日稅木戶錢〔全上〕

十倍

但軍談淨瑠璃等ノ類ニシテ寄ト唱ルモノハ木戶錢〔全上〕

五倍

遊覽所

日稅木戶錢〔全上〕

五倍

十二 人寄席 遊技場

月稅

金壹圓

十三 船

日本形船積石五十石未滿長〔自舳梁至艫梁〕三間迄年税金三拾錢解漁船小廻船〔積石ニ拘

ハラス〔全上〕

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金拾五錢ヲ增加ス

遊船長〔自舳梁至艫梁〕三間迄ハ年税金五拾錢

但三間以上壹間ヲ加フル毎ニ金貳拾五錢ヲ增加ス

車

年稅

馬車三疋立以上 金三圓

馬車壹疋立 金貳圓

荷積馬車 金一圓

人力車二人乘 金貳圓

全一一人乘 金一圓

荷積大七八車 金一圓

全中小車 但大六以下 金五十錢

十四 水車

年税

鴉臼一基

金貳拾錢

挽臼一基

金五拾錢

機關車一輪

金三圓

十五 乘馬(自用渡世共一頭ニ付)

年税

金三圓

十六 屠畜

牛 (一頭)

金五拾錢

豚羊(三頭)

金拾錢

第三章

第四條 第二章第二條ノ稅區稅率ニ據ルン種類ハ其稅區ノ稅率ニ據リ明治二十年四月一日現在

ノ營業人員ニ應シ之ヲ稅區ニ賦課ス

但本條四月一日後新クニ營業スルモノハ別ニ之ヲ各個ニ賦課ス

第五條 第二章第三條ノ收入見積金高ニ據ルン種類ハ之ヲ其營業者各個ニ賦課ス

第六條 稅區又ハ收入見積金高ニ據ラス特ニ稅率ヲ設ケタル種類ハ之ヲ其營業者各個ニ賦課ス

第七條 商業又ハ工業者ノ分社分店若シハ出張所等ヲ設ケ或ハ社員手代等ヲ派遣シテ營業ヲナ

スモノハ各其種類ノ稅率ニ據リ之ヲ賦課ス

第八條 左ニ記載スルモノハ各其種類ノ稅率ニ據リ之ヲ賦課ス

一 私立勸工場ニ出品販賣スルモノ

二 旅宿又ハ路傍軒下若シハ他ノ店頭ニ於テ商品ヲ陳列シテ販賣スルモノ

三 河岸場又ハ船中ニ於テ物品ヲ販賣スルモノ

第九條 營業者自ラ行商シ又ハ家族雇人ヲシテ行商セシムルモノハ第二章第二條ノ五六七ノ各項

ニ依リ別ニ之ヲ賦課ス

第十條 區戸長ハ第二章第四條ニ依リ其稅區ノ營業稅ヲ賦課セラル、キハ之ヲ區町村會ニ附シ

營業者各個ノ課額ヲ定ム

第十一條 區町村會ハ金百五十圓以下五十錢以上ノ範圍内ニ於テ適當ノ等差ヲ設ケ各個ノ課額ヲ評決スヘシ

第十二條 貧困又ハ老幼廢疾等ノ現況憫諒スヘキモノハ區町村會ノ評決ヲ以テ特ニ之ヲ免除スルヲ得ト雖モ其稅區ノ課額ヲ減スルヲ得ス

第十三條 收入見積金ニ據ルヘキ各營業者ハ明治二十年四月一日現在營業ノ種類專業兼業ノ別及收入見積金高ヲ取調全月五日限區戶長ニ申告シ戶長ハ之ヲ調査シ全月十五日限リ郡長ニ差出スヘシ

第十四條 郡區長ハ前條ノ取調書ヲ審査シ四月廿五日限リ知事ニ進達シテ認可ヲ受シヘシ前條ノ取調書中不相當ノ廉アルヲ認ムルキハ郡區長ハ之ヲ再調セシメ又ハ臨時公評人ヲ選定シ更ニ調査ヲ命スルヲ得

第十五條 新規營業者ハ本人ヲシテ其收入見積金高ヲ申告セシメ區戶長之ヲ調査シ戶長ハ之ヲ郡長ニ差出シ郡區長ハ其課額ヲ査定スヘシ

但稅區ニ據ルヘキ營業者ノ課額ハ其區町村會評決ノ標準ニ參照シテ之ヲ査定スヘシ

第十六條 稅區ニ據ルノ營業者ニシテ區町村會評決前ニ於テ廢業スルモノアルキハ本人前年度ノ納額ヲ本年度ノ賦課額トシ其金員ヲ該稅區ノ課額ヨリ扣除スヘシ

第十七條 營業者代替若シハ其ノ業ヲ家族ニ讓リタルモノハ繼續營業者ト見做スヘシ

第十八條 區戶長ハ營業者一人別ノ調査ヲナス場合ニ於テ便宜ノ爲メ各種營業者ノ總代人ヲ置取調ヲナサシムルヲ得

但シ總代人ハ該區町村ノ營業者ニ限ル

第十九條 各營業人ノ帳簿及物件ハ主務官隨時之ヲ檢査スルヲアルヘシ

#### 第四章 免除

第二十條 營業稅ニ於テ免除スヘキ種類左ノ如シ

- 一 老幼又ハ不具廢疾ニシテ些少ノ雜品ヲ製造又ハ販賣スルモノ
- 二 路傍又ハ軒下等ニテ些少ノ營業ヲナス者
- 三 製絲機織裁縫工女及十五年未滿ノ諸職工

四 祭典又は法會等ニ際シ一時路傍ニ開店シテ物品ヲ販賣スルモノ

第二十二條 雜種稅ニ於テ免除スヘキ種類左ノ如シ

一 社寺境内又ハ路傍ニ於テ僅少ノ飲食物ヲ販賣スルモノ

二 祭典又ハ法會等ニ際シ法樂或ハ奉納ト唱ヒ木戸錢ヲ要セスシテ興行ヲナシ若クハ路傍ニ

於テ演技スルモノ

三 癩疾不具者ノ遊藝ヲ以テ生計ヲナスモノ

四 調理髪人ニシテ十五年未滿ノモノ

第五節 徵收法

第二十二條 納期前廢業スルモノ及ヒ他ニ轉スルモノハ其全額ヲ徵收ス納期後新クニ營業スル

モノ亦同シ

第二十三條 市場稅演劇興行稅ハ其願人自ラ之ヲ徵收ス

第二十四條 相撲俳優遊藝師匠遊藝稼人等各地ニ出稼ヲ爲スモノハ豫メ相當ノ代人ヲ定メ置

不在中ハ代人ヲシテ納稅セシムヘシ但此ノ場合ニ於テハ其代人ノ住所姓名ヲ區戸長ニ届置ク

ヘシ

第二十五條 一時ノ寄寓者ニシテ營業スル者ハ鑑札下附ノ際全額ヲ徵收ス

○縣令第五十三号 明治十九年十二月廿五日

明治二十年度地方稅戶數割賦課規則縣會ノ議決ヲ經左ノ通之ヲ定ム

明治二十年年度戶數割賦課規則

第一條 戶數割ハ本籍寄留ヲ問ハス明治十九年十一月一日現在ノ戶數(本籍戶主ニシテ竈ヲナ

サハル者及非戶主ニシテ竈ヲナス者トモ)ニ應ジ區町村(町村ハ戶長役場區域限)ニ賦課スヘシ

第二條 毎戶ノ課額ヲ定メ若クハ免除スルハ區町村會之ヲ評決スヘシ

但區町村ノ課額ヲ減シ及ヒ一戶ニ付五戶當リノ額ヲ超過スルヲ得ス

○縣令第五十四号 明治十九年十二月廿五日

本年(六月)第二十九号ヲ以テ他縣ニ於テ虎列拉病流行ニ付キ此際吐瀉ノ二症アル患者ヲ診察シ

タル時ハ即時届出ヘキ旨及布達置候處該病終熄セシニ付自今届出ニ及ハス

○諭達第六号 明治十九年十二月廿五日

虎列刺病毒ハ寒冷之候ニ於テ一時熄滅スト雖ヒ其毒素ヲ蟄伏セシムルハ温暖ノ候ニ向ヒ再ヒ發生スルノ虞アルヲ以テ決シテ清潔豫防ノ法ヲ忽ニス可ラズ本年縣下該病ノ流行セシハ秋期ニ際シ幾何ナラズシテ寒冷ノ氣候ニ逢ヒ甚シキ蔓延ヲナスニ至ラズシテ終熄セシガ此際深ク病毒ノ潛蟄ニ注意シ之ヲ滅盡スルノ手段ヲ施ササルハ明年ニ及再ヒ發生スルモ難測實以テ容易ナラザル儀ニ付該病流行ノ地方ハ勿論一般人民ニ於テモ嚴寒ノ候ニ於テ時季ヲ失セス家屋内外及溝渠ノ掃除等厚ク注意シ充分行届ク様致スルハ此旨特ニ諭告ス

○文部省令第二十一號

明治十九年十二月廿二日

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校卒業生及丁年以上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ女子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與ス

與シ體操專修科卒業生ニハ體操ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラスシテ某學科ノ教員免許狀ヲ得ント欲スルモノハ文部省ノ檢定ヲ受クヘシ

第四條 檢定ハ毎年一回文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム

第五條 檢定ノ要目左ノ如シ

- 一 學力
- 二 品行
- 三 身體

第六條 學力ノ檢定ハ試験ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員タルニ適スヘキ學力アリト認ムル者ニ限

リ特ニ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

第七條 試験ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願ノ學科ニ就テ之ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ檢査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ記シタル願書ニ左ノ

書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付見意ヲ付記

シテ文部大臣ニ差出スヘシ

一 學業業務賞罰等ノ履歷ニ係ル書面

一 學業證書免狀ノ寫

第十條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十一條 免許狀ハ分チテ一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第六條但書ニ

依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノモノヲ得ント欲スルモノ及無

等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ三箇年以上教

職ニ従事シ其性格能幹超衆ノモノニ限り授與スルモノトス

第十二條 免許狀ヲ受ケルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其書換ヲ請フモノハ書換料金壹

圓ヲ納ムヘシ

第十四條 左ノ二項若シハ數項ニ觸ルモノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖

モ之ヲ沒收ス

但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若シハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ

刑ニ處セラレ若シハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮

ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限りニアラス

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一 身代限シ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一 荒酷暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一 舊法ニ依リ懲役若シハ禁獄若シハ鎖錮ノ刑ニ處セテレタルモノ  
 一 但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタル者ハ此限リニアラス  
 一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ  
 第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

免許狀様式

何等免許狀 (第六條但書ニ依リ授與スルモノハ等ヲ付セス)

族籍 姓 名

生 年 月 日

右何學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

文部大臣位勳爵姓名印

年 月 日

省 印

割印番號

○ 輪廓ハ高等師範學校卒業生ニ授與スルモノハ紅色トシ第六條ニ依リ授與スルモノハ綠色トシ第六條但書ニ依リ授與スルモノハ藍色トス

○ 文部省令第二十二號 明治十九年十二月廿二日

文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則發令前文部省ニ於テ授與シタル中學校師範學校教員免許狀及東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學校卒業證書ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトス

○ 文部省令第二十三號 明治十九年十二月廿三日

文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前東京師範學校及府縣立師範學校ニ於テ授與シタル小學師範學校卒業證書ハ其有効年限間小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトス  
 但初等師範學校卒業證書ヲ有スルモノハ尋常小學校以下中等及高等師範學校卒業證書ヲ有スルモノハ高等小學校以下ノ教員タルコトヲ得

○ 文部省令第二十四號 明治十九年十二月廿二日

某學校ハ教員免許狀ヲ有スルモノハ等位ノ該學校ニ進スベキ諸學校以下ノ教員タルコトヲ得

○農商務省訓令第二十號 明治十九年十二月廿二日 北海道廳 府縣

明治十六年(七月)當省第八號達中第十一項第一及第十四項第二左ノ通更正ス

第十一 勸業委員ノ選舉

勸業委員ハ每郡區役所管轄部内ニ四名以内トス但一部内四名ヲ以テ積算シ其總人員内ニ於テ甲乙部互ニ其人員ヲ増減スルハ妨ナシ

第十四 勸業委員費

○勸業委員ニ月手當金ヲ給スヘキ必要アルキハ之ヲ區町村費ヨリ支辨シ或ハ府縣會ノ決議ヲ經テ全部若シハ其幾ノヲ地方稅中勸業費ヨリ支出スルコトヲ得其月手當額ハ一名金五圓以内トス但第十一項第一ノ總人員ニ對シ一名金五圓ヲ以テ積算シ其金額内ニ於テ互ニ増減支給スルハ妨ナシ

○勸業上ニ關シ勸業委員ヲ北海道廳府縣廳ニ招喚スヘキ要用アルトキハ其旅費日當ハ地方稅中勸業費ヨリ支給スベシ

○勸令 明治十九年十二月二十三日

朕明治十四年度ノ歲計決算ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勸令第八十二號

明治十四年度歲計決算

歲入

第一 款 二 租

第一 項 海

第二 項 地

第三 項 鑛

第四 項 北海道物產

第五 項 酒

第六 項 醬 麵 營 業 稅

稅 金六千六百七十七万五千九百二十七圓二十九錢六厘

稅 金三百五十六万九千六百六十六圓三十九錢一厘

稅 金四千三百二十七万四千三十一圓八十九錢六厘

稅 金二万六千六百三十二圓三十二錢六厘

稅 金八十一万七千八百三十六圓六十九錢九厘

稅 金千六百四万六千六百六十三圓二十七錢四厘

稅 金五万六千七百九十六圓四十錢



- 第七項 煙 稅 金二十七萬六千三百三十二圓三十六錢五厘
- 第八項 證券印紙諸稅 金八十八萬五千八百二十六圓二十八錢六厘
- 第九項 郵 便 稅 金百六十五萬九千六百七十九圓七十九錢七厘
- 第十項 訴訟野紙諸稅 金十三萬六千五百七十四錢
- 第十一項 代 言 稅 料 金二萬百二十圓
- 第十二項 船 稅 金十三萬三千四百十七圓六十八錢
- 第十三項 車 稅 金四十二萬八千二百一十圓八十六錢五厘
- 第十四項 會 社 稅 金四十九萬六千二百二十三圓六十四錢七厘
- 第十五項 鈳 獵 稅 金九萬三千三百三十三圓九十五錢
- 第十六項 牛馬買賣免許稅 金八萬八千四百三十七圓十四錢一厘
- 第十七項 賣 藥 營 業 稅 金八萬四千二百四十六圓六錢四厘
- 第十八項 度 量 衡 稅 金三千二百九十八圓八十七錢六厘
- 第十九項 版 權 免 許 料 金三千七百三圓十四錢九厘

- 第二十項 海外旅券其他免許手數料 金七千九百三十六圓五十六錢九厘
- 第二十一項 舊 稅 納 金五百四十七圓七十二錢二厘
- 第二十二項 作 業 益 金 金二百十四萬六千六百九十七圓七十七錢六厘
- 第一款 大 藏 省 造 幣 金三十八萬五千二百三十三圓四十二錢五厘
- 第二項 海 軍 省 造 船 金二萬三千三百七十三圓八十四錢一厘
- 第三項 海 軍 省 石 炭 金千八百九十六圓七十八錢三厘
- 第四項 農 商 務 省 製 作 金二萬六千二百七十六圓八十六錢
- 第五項 工 部 省 鑛 山 金三十萬八千八百七十七錢三厘
- 第六項 工 部 省 鐵 道 金百十三萬七千四百七十八圓八十四錢七厘
- 第七項 工 部 省 電 信 金二十六萬三千六百二十八圓三十二錢四厘
- 第八項 工 部 省 工 作 金一萬五千二百三十三圓七十二錢七厘
- 第九項 工 部 省 採 油 金三百六十八圓八錢二厘
- 第十項 開 拓 使 諸 作 業 金二萬五千六百二十九圓九十六錢五厘

第十二項 北海道鐵道 金八千五百九十圓十九錢九厘

第十三項 廣島縣礦山 金五十圓九十七錢二厘

第三款 雜項收入 金四十八萬八千八百八十七圓十三錢四厘

第一項 森林收入 金二十八萬二千二百五十八圓七十九錢六厘

第二項 官有物貸下料 金十一萬五千九百九十二圓八十一錢七厘

第三項 開(市港)場官地貸下料 金八萬四千四百三十五圓五十二錢一厘

經常歲入合計金六千四百三十三萬四千五百三十三圓三十錢六厘

第三款 臨時歲入

第一款 諸項車返金 納金六十三萬七千三百七十五圓五錢八厘

第一項 諸貸出金返納 金四十三萬六千九百六十一圓八十五錢八厘

第二款 官方及舊藩金貸返納 金十五萬七千三百三十一圓八十錢五厘

第三項 石高貸下返納 金四萬九千六百九十一圓三十九錢五厘

第三款 雜項收入 金六百五十四萬七千九百九十二圓九十錢八厘

第一項 官有物拂下代 金七十三萬七千四百二十六圓八十四錢

第二項 雜項收入 金五百八十一萬五百六十六圓六錢八厘

臨時歲入合計金七百八十八萬五千三百六十七圓九十六錢六厘

歲入總計金七千四百八十八萬八千八百八十七圓三十七錢三厘

歲出

經常歲出

第一款 國債還 金二千二百三十三萬六千五百八十三圓八十錢九厘

第一項 內國債 金四百八十八萬四千百十三圓二十二錢二厘

第二項 外國債 金九十五萬二千四百七十圓五十八錢八厘

第三項 紙幣銷却 金七百萬圓

第二款 國債利子並雜費 金千五百六十二萬五千五百二十八圓九十錢六厘

第一項 內國債利子 金千四百八十八萬四千百二十一圓五十九錢六厘

第二項 內國債雜費 金八千六百四十一圓五十六錢

- 第三項 外國債利子 金七十九万七千八百八十五圓五十八錢五厘
- 第四項 外國債雜費 金九千六百九十圓十六錢五厘
- 第三款 帝室及皇族費 金百五十二万三千四百九十一圓六十二錢三厘
- 第四款 年金恩給諸祿 金四十八万七千四百四十四圓四十三錢五厘
- 第一項 賞勳年金 金十四万八千三百八十四圓五十錢八厘
- 第二項 軍人恩給 金十四万五千三百七十四圓五十四錢七厘
- 第三項 社寺祿 金四万七千八百五十四圓八十二錢三厘
- 第四項 西南從軍輩一時賜金 金二万二千五百五十五圓七十錢
- 第五項 沖繩縣士族金祿 金十一万五千三十三圓八十七錢六厘
- 第六項 沖繩縣社寺役俸 金九千六百四十一圓
- 第五款 官省院使局費 金二千二百五十九万九千四百六十八圓廿一錢九厘
- 第二項 太政官 金六十三万四千四百六十三圓五十錢四厘
- 第三項 外務省 金二十二万五千四百四十一圓

- 第三項 內務省 金百一萬八千二百六十一圓七十一錢八厘
- 第四項 大藏省 金百二十七万五千九百六十五圓三十九錢一厘
- 第五項 陸軍省 金八百二十万八千六百八圓九十三錢三厘
- 第六項 海軍省 金三百一萬四千七百五十八圓四十八錢三厘
- 第七項 文部省 金八十九万五千八百九十七圓
- 第八項 農商務省 金百十四万四千六百九十九圓六十三錢四厘
- 第九項 工部省 金四十七万六千九百五十四圓五十四錢
- 第十項 司法省 金百七十八万六千七百三十六圓五十錢
- 第十一項 宮內省 金三十八万六千四百一圓五十七錢三厘
- 第十二項 元老院 金十七万九千八百五十四圓三十六錢七厘
- 第十三項 開拓使 金百三十五万八千二百三十二圓八十錢三厘
- 第十四項 外國公館 金四十六万四千九百九十二圓五十一錢八厘
- 第十五項 驛遞局 金百五十四万六千八百八十一圓二十五錢五厘

第六款 (營業資本) 缺額補填 金二万八千圓

第十一項 工部省 工作 金二万八千圓

第七款 營繕 土木 費 金五十二万五千二百五圓四十錢二厘

第一項 營繕 金十一万三千百九十六圓四十二錢六厘

第二項 土木 金四十一万二千八圓九十七錢一厘

第八款 府 縣 費 金三百八十一万六千八百三十三圓九十九錢九厘

第九款 警 察 費 金二百三十四万三千八百四十三圓七十二錢四厘

第一項 警 視 廳 金四十一万四千百九十五圓五十七錢五厘

第二項 三 府 各 縣 金百九十二万九千六百四十八圓十四錢九厘

第十款 神 社 費 金十四万三千四百九十九圓七十二錢八厘

第十一款 備 荒 儲 蓄 金百二十万圓

經常歲出合計金六千四十一万三千七百九圓八十三錢三厘

臨時歲出

第一款 興 業 費 金百七十七万五千八百八十二圓九十三錢三厘

第一項 大 藏 省 印刷 金三万九千三百四十八圓

第二項 陸軍省 兵器製造 金三万九千八百四十八圓十七錢九厘

第三項 海 軍 省 船 渠 金九万九千三百三十三圓六錢一厘

第四項 海 軍 省 火 藥 金十五万四千八百二十七圓九十四錢四厘

第五項 農 商 務 省 製 作 金七千五百九十七圓三十二錢七厘

第六項 工 部 省 鑛 山 金三十一万九千九百三十三圓二十三錢五厘

第七項 工 部 省 鐵 道 金六十万二千二十五圓

第八項 工 部 省 電 信 金十三万八千三百七十六圓十八錢一厘

第九項 工 部 省 工 作 金六千四百二十七圓五十八錢五厘

第十項 工 部 省 採 油 金六千三百三十九圓八十八錢四厘

第十一項 北 海 道 炭 山 金三十二万六千六百五十五圓八十錢九厘

第十二項 北 海 道 石 狩 川 改 良 金二万九千八百六十圓七十二錢八厘

第二款 雜	出	金四百四十八万二千二百八十三圓二十六錢
第一項 御 巡 幸 費		金四十五万九千八百二十七圓六錢八厘
第二項 宮 殿 御 造 營 費		金四十五万三千七百二十七圓三十七錢二厘
第三項 內國勸業博覽會費		金二万四千三百二十圓
第四項 北海道監獄建築費		金十万四千百十六圓四十錢五厘
第五項 砲 臺 建 築 費		金三十四万圓
第六項 金澤仙臺兵營建築費		金九万四千五百圓
第七項 小倉兵營建築費		金八千九百九十二圓七十八錢七厘
第八項 神宮式年御造營費		金二万七千八百八十三圓
第九項 日本鐵道會社補助金		金一万二千三百七圓九十錢
第十項 雜	出	金三百五万七千三百九十九圓七十二錢八厘
第三款 各廳營業資本		金四百八十五万九千四百四十四圓九十四錢四厘
臨時歲出合計		金千四百萬六千六百拾壹圓拾三錢七厘

歲出總計金七千四百拾六萬三百貳拾圓九拾七錢

○本縣訓令第廿三號

明治十九年十二月廿八日

郡區町村

第一部歳入未納追徵整理順序左之通相定、明治十七年(九月)丙第二十七號及本年五月丙第二十

八號達ハ廢止ス

但様式ハ別ニ頒ツ

第一部歳入未納追徵整理順序

第一條 郡區長ハ第一部歳入ノ内事故アリテ翌年度十一月三十日迄ニ徵収ヲ完了セサルモノハ

之ヲ其年度ノ未納元額トシ甲號様式ヲ如クニ納帳帳ヲ調製シ之ニ登記シテ歳入取扱順序第四十九條ノ報告書(出納閉鎖前不納報告)ヲ發送スヘシ

第二條 前條登記ノ未納ヲ後日追徵シタルハ其時々之ヲ臺帳ニ記載シ乙號様式ノ如ク其報告書ヲ製シ翌月三日迄ニ發送スヘシ

第三條 諸營業及船車稅不納者旅行又ハ出踪シ其財産不分明ニシテ公賣處分ヲ爲ス能ハサルモノ他日歸籍又ハ所在發見シタルハ其未納ニ係ル每期ノ稅金ヲ追徵シ若シ未納ノ當初ヨリ滿

三ヶ年ヲ經過シ尙完結セサルモノハ其際更ニ處分方ヲ稟申スヘシ

第四條 郡區長ハ臺帳登記ノ納稅者ヲ他管ヘ移住送籍スルキハ(郡長ハ戶長ノ報告ヲ受)其不納

ニ係ル書類ヲ取纏メ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

但管内他郡區ニ係ルノ送籍ニハ直ニ該書類ヲ其郡區長ニ引繼同時ニ丙號様式ノ如ク報告

書類ヲ製シテ發送スヘシ

第五條 郡區長ハ縣廳又ハ他郡區ヨリ書類ヲ引繼テ受タルキハ之ヲ臺帳ニ登記シ郡長ハ其戶長

ニ通報スヘシ

第六條 戶長ハ丁號様式ノ如ク諸稅未納帳ヲ調製シ置他日本人移住送籍又ハ歸籍若シハ所在發

見シタルキハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

○本縣文第一二二六號

明治十九年十二月廿五日

各 郡

新年紀元節天長節ノ賀表郡書記戶長教員等ハ左ノ第二書式非役正七位以下同勳七等以下ノ者ハ

左ノ第二書式ノ通認メサセ所轄郡役所ニ取纏メ縣廳ニ差出スヘシ

但連名ヲ以テ差出サシムルモ妨ケナシ

用紙大奉書又ハ遊葉

第一書式

第二書式

<p>謹奉賀新年 (紀元節) (天長節)</p>	<p>何郡 書記(何村)戶長 何小學校長何苗字名 小學 校訓導</p>
----------------------------------	---

<p>謹奉賀新年</p>	<p>位勳等非 役位勳等 苗字名</p>
--------------	--------------------------

○陸軍省令第四十二號

明治十九年十二月二十四日

砲兵工廠條例定員表備考中左ノ通改正ス

各所ノ下「監務ハ時宜ニ依リ技師ヲ以テ之ニ充テ其」ノ十八字ヲ加フ諸員ハノ下「時宜ニ依リ」ノ五字ヲ削ル

○大藏省訓令第五十九號

明治十九年十二月二十五日

北海道廳 府縣

歳入歳出計算記簿規程別冊ノ通改定候條右ニ據リ來二十年度ヨリ施行スヘシ尤モ別冊ハ當省ヨリ別ニ送付スヘシ

但内國稅徵收費ニ係ル帳簿ハ別ニ定ムル所ニ據ル

○農商務省訓令第二十一號

明治十九年十二月二十五日

北海道廳 府縣

明治十八年(八月)布告第二十八號獸醫免許規則第五條ニ據リ假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ假開業獸醫免許手續ニ據リ取扱フヘシ

假開業獸醫免許手續

第一條 獸醫ニ乏シキ地トハ開業獸醫ノ居所ヨリ一日中ニ往復シ能ハサル土地ニ限ルヘシ

第二條 假開業免狀ヲ得ント欲スル者アルトキハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡區役所ヲ經テ地方廳ヘ差出サシムヘシ

第三條 假開業免狀ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ獸醫缺乏ノ土地ニ限リ區域ヲ定メ其地勢、廣狹、牛馬頭數等乙號書式ニ據リ詳細取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

第四條 假開業獸醫ハ一區域ニ一人ヲ限ルヘシ

第五條 假開業獸醫營業ノ免許年限ハ滿三年以内トス

但シ免許期限ヲ經ルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ假開業免狀ノ下付ヲ具申スルコトヲ得

第六條 假開業獸醫ハ免許區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スヲ得スト雖モ其免許區域内ニ率來リタル病畜ハ之ヲ治療セシムルコトヲ得

第七條 假開業獸醫ニシテ本免狀ヲ得タルトキハ地方廳ヲ經由シテ其假開業免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ

第八條 假開業獸醫免許年限中其區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル獸醫ノ開業者アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ經同ノ上該假開業免狀ヲ返納セシムルコトヲ得

第九條 假開業獸醫ニシテ免狀ノ有効期限ヲ經過シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ該免狀ヲ當省ニ返納セシムヘシ

第十條 假開業免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ  
甲號書式(用紙美濃紙正副二通)

獸醫假開業免狀下付願

住所(寄留ナレハ本籍ヲ併記スヘシ)

族籍

氏名

年月生

私儀何郡區何(町村)何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假開業免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

右

氏名印

戶長

農商務大臣宛

乙號書式

獸醫假開業出願書調書

住所

族籍

氏名

年月生

營業區域 何(郡區)一圓又ハ何(郡區)ノ内何(町村)何(町村)

區域内地勢

同 廣狹

同 牛馬頭數

營業年限 何箇年

開業獸醫居住地ヨリ假開業獸醫營業區域境界マテノ最近距離 何里

○農商務省訓令第二十二號

明治十九年十一月廿五日

府縣(沖繩縣ヲ除ク)

明治二十年度以降森林收入科目左ノ通改正候條森林ニ係ル諸收入ハ總テ該科目ニ據リ整理スヘシ

款 八 項

目



森林收入

貸下料	地所貸下料	
	建物貸下料	
	立木貸下料	
拂下代	物品貸下料	
	地所拂下代	
	建物拂下代	
	木竹拂下代	
雑入	雑種物拂下代	土石下草其他各種產物及盜誤採取品、用品拂下代ノ類
	木、材保安料	綱料取揚料トモ
	辨償金	毀損紛失物辨償金誤伐擅伐及漫用辨償金
	訴訟入費償却金	
	違約金	
	盜難品賠償金	
	返納金	前金渡ノモノ年度後返納ノモノ
	懲罰金	罰俵

○本縣訓令第廿五號

明治十九年十二月廿八日

郡區町村

町村學事諸表簿自今左ノ調査心得ニ據リ別紙様式之通り調製スヘシ

但別紙様式ハ別ニ頒ツ

一 學事表簿調査心得

一 甲號學齡簿ハ戶長之レヲ掌リ其部内學齡兒童ニ係ル事項ヲ詳記シ置クヘシ其記入ノ方法左

如シ

但明治十九年十二月末ニ至リ學齡ヲ終ル兒童ノ事項ハ此際取調本簿ニ記入スヘシ

一 學齡兒童ノ姓名ヲ記入スルニ寄留者ハ其姓名ノ肩ニ寄ノ字ヲ記スヘシ

一 學齡ニ入り及學級ヲ終ル年月日ハ兒童ノ生日ヨリ起算シテ滿六年ニ至ルヲ學齡ニ入ル年月

日トシ再起算シテ滿十四年ニ至ルヲ學齡ヲ終ル年月日トシテ之ヲ記入スヘシ

一 就學退學年齡別ハ小欄ニハ兒童就學退學ノ年月日(就學ハ墨書退學ハ朱書)ヲ記スヘシ

一 卒業退學事故退學ノ欄ニハ簡易尋常高等ノ各學科中一科若クハ二科ヲ卒リ退學セシ者ハ卒

業退學ノ欄ニ其卒業セシ學科ヲ墨書シ又ハ疾病廢疾貧窶其他止テ得サル事故ニヨリ卒業セ

スシテ退學セシ者ハ事故退學ノ欄ニ其事由ヲ朱書スヘシ

- 一 巡回授業及家庭ノ教育ニ就ク者ハ其姓名ノ肩ニ(巡)(家)ノ字ヲ記スヘシ
- 一 兒童ノ轉居轉籍セシキハ住所番地ノ欄内ニ貼紙シテ其府縣郡區町村名ヲ記スヘシ(部内ハ墨書部外ハ朱書)
- 一 兒童死亡シタルキハ年齢別ノ小欄ニ死亡ノ年月日ヲ朱記スヘシ
- 一 族籍ハ華、土、平、職業ハ庶業トハ官吏神官、僧侶、學者、醫者等(農、工、商、及勞力(勞力ハ漁、樵、僱等)ノ別ヲ記スヘシ)
- 一 之號學齡簿ハ甲號ト全シシ戸長之ヲ掌リ其部内學齡兒童中疾病家計困窮其他止ヲ得サル事故ニ由リ就學猶豫ノ認可ヲ得タルモノヲ詳記スヘシ其記入方法左ノ如シ
- 一 學齡兒童姓名并ニ學齡ニ入ル年月日學齡ヲ終ル年月日及死亡族籍等ノ記載方ハ甲號簿記入方法ニ全シ
- 一 就學猶豫期限ノ欄ニハ就學猶豫ノ認可ヲ得タル期限ヲ何年何月ヨリ何年何月迄ト記入シ事故ノ欄ニハ其猶豫ヲ得サル事實(廢疾疾病貧窶其他止ヲ得サル事故)ヲ記入スヘシ以下再三再四皆之ニ倣フ

二 學事統計表ハ公學費出納公學所有品及學資寄附表、公立諸學校幼稚園書籍博物館表ノ三種ハ戸長之ヲ掌シ表尾欄外説明ノ主趣ヨリ部内ノ學事ニ係ル事項ヲ曆年ノ計數ヨリ各武通取調(壹通ハ役場ニ備置壹通ハ郡役所ニ)翌年一月十五日限り郡長ニ進達スヘシ

第一 生徒學籍簿

此學籍簿ハ各學校ニ於テ其等科毎ニ備フベキモノニシテ男女ハ其帳簿ヲ區別シテ之ヲ記入スヘシ其記入ノ順序左ノ如シ

- 一 番號(入籍順)生徒氏名、年齢、入學年月、從前ノ教育、族籍、職業、父母或ハ後見人ノ氏名、住所
- 一 ハ生徒入學ノ際取調記入スヘシ
- 一 入級年月日ハ生徒一年級二年級三年級四年級ノ級別ニ從ヒ其入級スル毎ニ之ヲ記入スヘシ
- 一 退學年月、退學ノ理由、生徒就學中轉籍或ハ小學(高等、尋常)科又ハ簡易科ヲ卒テ他ノ學科ヲ修メ或ハ職業ニ就ク等ノ類ヲ別チ之ヲ詳記スヘシ

第二 生徒并職員月末一覽表

此表ハ每月末學校長若シハ首坐教員ヨリ戸長(區長、區長)ニ出スヘシ

一出席生徒數、在級生徒中一月間出席セシ人員ノミヲ掲記スヘシ  
二日々出席平均數、一月間ノ授業日數ヲ以テ一月間生徒出席總數ヲ扣除シタル計數ヲ記入ス

一卒業生徒ハ簡易尋常高等科ノ各科中二科若クハ三科卒ヘシ者ヲ掲クヘシ  
卒業退學生ハ簡易尋常高等ノ各科中二科若クハ三科ヲ卒ヘ退學セシ者ヲ記スヘシ

第三、生徒并職員年末一覽表

此表ハ學校長若クハ首坐教員ヨリ毎年末戶長(區ハ區長)へ出スヘシ

一出席生徒數、日々出席平均數、卒業生徒、教員、未卒業退學生ハ毎月表ヨリ摘記スヘシ  
右月末表及年末表ノ二種ニ限リ正副二通調製シ一通ハ主務所ヘ留メ之ヲ保存スヘシ  
此外日誌并生徒戒飭表生徒出席簿職員出勤簿卒業證附與人名簿備品明細簿學齡未滿及學齡外ニシテ出校スル生徒ニ關スル帳簿並各學校ニ於テ適宜調製シ置クヘシ

○本縣訓令第廿六號  
本年(七月)乙第四十二號達徵發事務取扱手續ハ左之通追加ス

第五條 郡區長ハ左ノ諸表ヲ製シ每年前條ノ表ト共ニ之ヲ縣廳ヘ差出スヘシ

但シ第四項第七號表ハ仙臺區、刈田郡白石、志田郡古川、牡鹿郡石巻、市場ニ限ル

一徵發事務條例附錄第三號ノ二三

二全

三全

四全

第六條 新クニ構造シ若クハ買入レタル漁船アルハ區戶長ハ附錄第五號ニ依リ漁船表ヲ製シ其時々郡長ヲ經テ(區長ハ直チニ)之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

○縣令第五十五號 明治十九年十二月廿八日

加美郡撰舉縣會議員一名欠員ニ付來ル二十年一月三十一日限り右補員撰舉會ヲ開設ス

○縣令第五十六號 明治十九年十二月廿八日

明治三十年度地方稅徵收期限左之通之ヲ定ム

明治二十年度地方稅徵收期限

地租割

第二期 明治二十年八月一日ヨリ 五分

第三期 全年十一月二十六日ヨリ 五分

營業稅雜種稅

第一期 明治二十年六月一日ヨリ 五分

第二期 全年十月一日ヨリ 五分

但期限後新クニ營業スルモノ及期限前廢業スルモノハ其時々徵收シ船車ハ國稅ニ準シ屠畜并ニ日稅月稅(前月末)ハ前收ス

戶數割

第一期 明治二十年二月十日ヨリ 六分

第二期 全年五月一日ヨリ 四分

但期限前他ニ轉居スルモノハ其時々徵收ス

○本縣告第七十七號

明治十九年十二月廿八日

賣藥營業者行商者ニシテ預藥又ハ置藥ト唱へ販賣セル藥品ノ内無印紙ノモノ頭記ノ期限内印紙

ヲ貼付用スルカ又ハ買戻シ取戻シセザルモノハ總テ棄却スヘキ旨左ノ各縣ヨリ通知アリタリ

一 明治二十年二月廿八日限山形縣、新潟縣、福島縣、朽木縣、廣島縣、鹿兒島縣

一 全年一月卅一日限愛知縣、石川縣、長崎縣

一 全年二月十五日限青森縣

一 全年三月末日京都府

○大藏省訓令第六十號

明治十九年十二月二十七日

北海道廳 府縣

當省所管經費諸拂戻及缺損金ニ係ル支出方ノ儀ハ從前ノ通計算書ヲ付シテ當省ニ請求シ認可ヲ得テ其支拂方ハ會計主務官ニ命令シ支拂切符ヲ發付セシムヘシ

但本費支出ニ係ル報告ハ歲入歲出出納規則第七十一條ニ照準スヘシ

○大藏省訓令第六十一號

明治十九年十二月二十七日

北海道廳 府縣

當省所管經費諸拂戻及缺損金科目左ノ通相心得ヘシ

款

項

目

節

諸拂戻及缺損金		租稅過誤納下戻	内國稅	(第一部歳入項ヲ以テ節トス)
租稅拂戻		關稅	關稅	
租稅拂戻		内國稅	内國稅	
關稅		關稅	關稅	
鹽油稅		鹽油稅	鹽油稅	
煙草稅		煙草稅	煙草稅	
輸出稅		輸出稅	輸出稅	
輸入稅		輸入稅	輸入稅	
印紙返納代金		印紙返納代金	印紙返納代金	

證券印紙	手形用紙共	諸收入過誤納下戻	缺損補填金
煙草印紙	煙草印紙	諸收入過誤納下戻	缺損補填金
訴訟用印紙	訴訟用印紙	諸收入過誤納下戻	缺損補填金
賣藥印紙	賣藥印紙	諸收入過誤納下戻	缺損補填金

○陸軍省訓令第二號

明治十九年十二月二十八日

府縣

徵發令第十二條第二項ノ乘馬馱馬駕馬車輛並ニ屬具ノ員數入用候條左ノ項目ニ依リ取調左ノ書式ノ表面ヲ製シ來二十年二月廿八日迄ニ無遲滯所管鎮臺ニ差出スヘシ

但徵發令第十四條並ニ乘馬飼養令ニ據リ飼養スル馬匹ハ調査ヲ要セス

第一馬匹(乘馬駕馬馱馬耕馬)ハ來二十年々齡五歲以上十六歲未滿ノモノニシテ第二項ヨリ第

四項ニ適當ノ者ヲ合格トシ其他ノ者ヲ不合格トシ調査スヘシ  
但年齢ハ生年チ一歳トシテ計算スヘシ

第二 乘馬ハ身幹四尺五寸(曲尺)以上ニシテ現在乘馬ニ役スルモノ又ハ曾テ乘馬ニ役セシ者ヲ  
算入スヘシ

第三 駄馬ハ身幹四尺三寸以上ニシテ現在駄馬ニ役スルモノ又ハ曾テ駄馬ニ役セシ者ヲ算入ス  
ヘシ

但現在耕馬ニ役スルモノ又ハ曾テ耕馬ニ役セシ者ハ本項ノ駄馬ニ算入スヘシ

第四 駕馬ハ身幹四尺五寸以上ニシテ現在駕馭ニ役スルモノ又ハ曾テ駕馭ニ役セシ者ヲ算入ス  
ヘシ

第五 車輛ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車荷馬車(馬ヲ駕シ得ルモノハ總テ含有ス)ニ限ル又器具完  
全ニシテ數日ノ運轉ニ耐エルモノヲ甲トシ器具完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ  
乙トシ調査スヘシ

第六 屬具ハ輓具駄鞍(附屬繩共)ニ限ル又其材料完全ニシテ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ甲ト

シ材料完全ナラサルモ一時ノ用ニ供シ得ヘキモノヲ乙トシ調査スヘシ

明治何府  
何年何縣馬匹員數表

考備	計	種別		合格		不合格	
		牝	牡	牝	牡	牝	牡
明治何府 何年何縣馬車員數表		五歲以上十六歲未滿		乘馬	駕馬	乘馬	駕馬
		五歲未滿		乘馬	駕馬	乘馬	駕馬
		十六歲以上		乘馬	駕馬	乘馬	駕馬
		四尺三寸未滿		乘馬	駕馬	乘馬	駕馬

明治何府馬車駄馬屬具員數表  
何年何縣

郡 區	種 別	甲		乙	
		八乘馬車	荷馬車	八乘馬車	荷馬車
	二輪車				
	四輪車				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	屬 駄馬				
	具 馬				
	計				
	考備				

明治十九年十二月二十八日 北海道廳 府縣

○陸軍省訓令甲第參号

本年當省令甲第二十九號陸軍召集條例第十四樣式召集旅費概算表ハ現員ノ十分ノ三ヲ加ヘ調査ス可シ

但本文十分ノ三ニ當ル人員ノ旅費金ハ現員中最遠隔ノ者ニ均シキ額ヲ以テ算ス可シ

郡 區	種 別	甲		乙	
		八乘馬車	荷馬車	八乘馬車	荷馬車
	二輪車				
	四輪車				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	一頭引				
	二頭引				
	三頭引				
	四頭引				
	屬 駄馬				
	具 馬				
	計				
	考備				

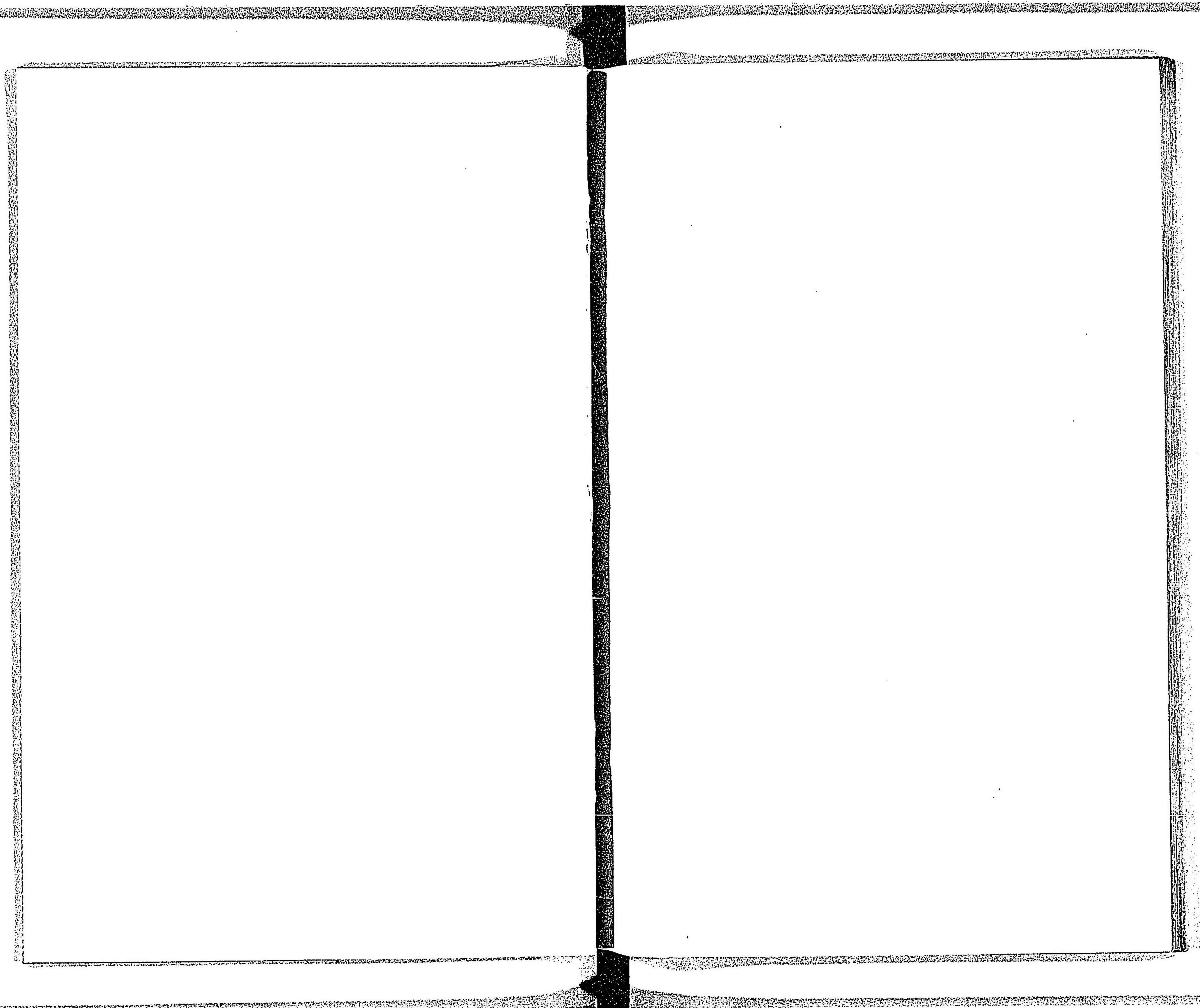


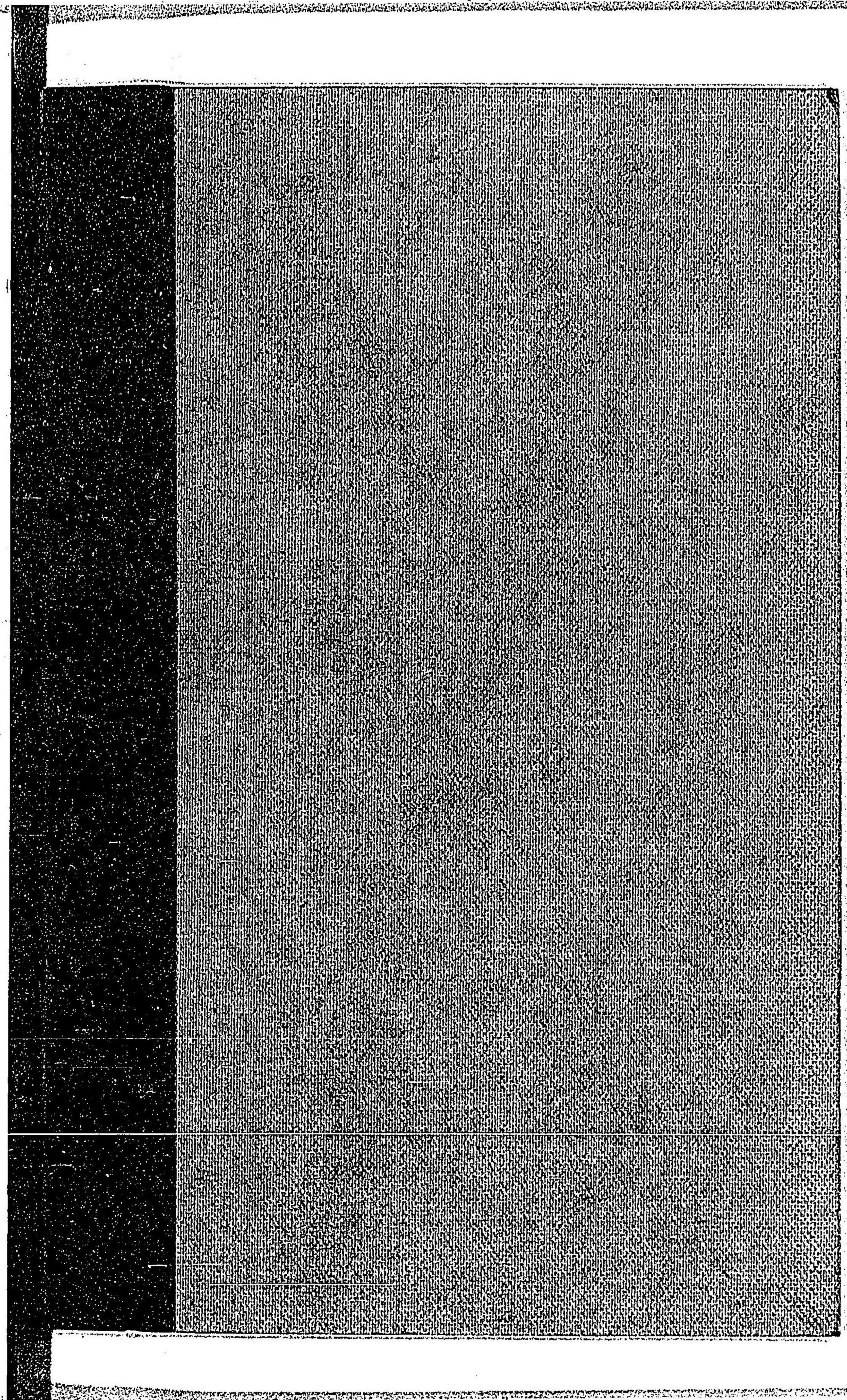


323640

宣統三年三月二十六日

宣統三年三月二十六日





300301-000-0

CZ-1113-17

法令類纂 明治19年2月~12月分

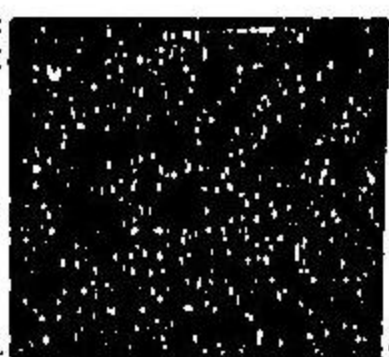
宮城県

1冊(合本)

1886.3

BBD-0032





欠

MISSING